ライオン誌(毎月20日発行)第55巻第5号 2012年10月20日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

WWW.THELION-MAG.JP NOVEMBER 2012 11

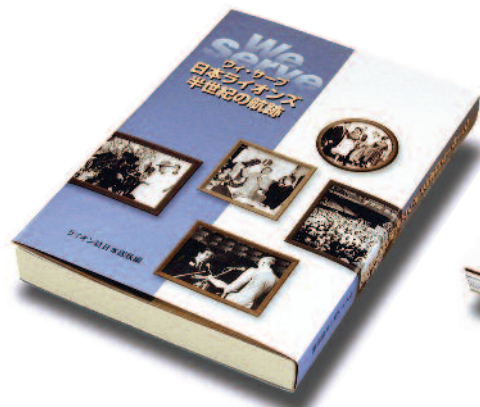
リーディング・アクション・プログラム

ライオン誌日本語版出版物

創刊55周年記念特別セット（価格1,000円／送料込）

ライオン誌日本語版は2012年7月号で、第55巻目に入りました。ライオン誌日本語版委員会ではこれを記念して、ライオン誌出版物のうちライオンズの歴史に関連する『ウィ・サーブ』『ライオニズムよ永遠に』『ライオン誌日本語版創刊号復刻版』を3冊セットにして1,000円（送料込／通常1,900円・送料別）で頒布することにしました。この機会にぜひお求めください。
※部数に限りがあります。お早めにお申し込みください。

●ウィ・サーブ　●ライオニズムよ永遠に　●『ライオン』誌創刊号復刻版

●ウィ・サーブ

1952年に初めてのライオンズクラブが誕生してから、世界有数のライオンズ国となるまでの日本ライオンズ半世紀の軌跡。
B6判　332ページ（※通常頒価800円）

●ライオニズムよ永遠に

ライオンズクラブの創設者メルビン・ジョーンズの生涯を時代と共に活写した労作。ジョーンズの書簡集と寸言録も収録。
B6判　224ページ（※通常頒価800円）

●『ライオン』誌創刊号復刻版

1958年、『ライオン』誌日本語版創刊。発行部数はわずか4,500部だったが、誌面からは草創期の活気がひしひしと伝わってくる。
B5判　68ページ（※通常頒価300円）

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jp宛てにご注文ください。
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門…………　□部
●クラブ運営の基礎知識…………　□部
●リーダーシップを養う…………　□部

●創刊55周年記念特別セット…………　□セット
（『ウィ・サーブ』『ライオニズムよ永遠に』『ライオン誌日本語版創刊号復刻版』の３冊入り）

地区名 33　-	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒　-		お電話番号

LION MAGAZINE IN JAPAN
November 2012, Vol.55 No.5

We Serve CONTENTS

■2012年11月号
表紙
岩手県平泉町
達谷窟毘沙門堂
写真／鈴木秀晃

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

MESSAGE FROM THE PRESIDENT

ライオンズクラブの国際性を忘れずに

　国際役員としての最大の特権の一つは、世界を旅する中でさまざまな国籍や背景を持つ人々に出会えることです。「人間はどこでも同じ」と言われますが、誰もが快適さ、安全、家族の幸せを求めるという点で、確かにその通りだと思います。また、「どこのライオンズも基本的に似た者同士」ということも真実です。個々のクラブはさまざまな形で奉仕していますが、等しく各地域社会の多様なニーズを満たしています。

　思いを共有出来るライオンたちに、国際協会の一員であることに誇りを持って参加するよう、私は呼び掛けます。世界中の仲間と共にグローバル奉仕実施キャンペーンに参加することで、10月には視覚障害者を支援し、12月、1月には食料を提供し、4月には環境を改善しようではありませんか。また今年度の識字率向上キャンペーンや、LCIFへの献金にも協力してください。フェイスブックやツイッターなどのソーシャルメディア・ツールを利用すれば、他のライオンズと情報を交換し、あるいは少なくともアイデアを得ることが出来るでしょう。

　地域社会に重きを置くことは大切であり、そのための活動を続けるべきです。しかし、私たちは地球村を構成する国際社会の一員でもあります。幼い頃、私の両親は人々を夕食の席に温かく迎え入れました。母の兄弟が家族で訪ねて来ることもあれば、別の親戚が立ち寄ることもありました。両親はそれを少しも苦にせず、食卓にはいつも十分な食べ物が並べられたものです。今も小さな町では、こうした温かいもてなしが生きているはずです。

　しかし現代ではメディアや通信技術の進歩によって、住む町から遠く離れた場所の様子が分かります。そのため、地球のどこかで困っている多くの人々に心遣いを示さなければなりません。私たちは食料を提供し、視力回復を支援し、人生で成功するために不可欠な読み書きを教えることで、近隣だけでなく世界各地の人々に奉仕する必要があるのです。

「ベストを尽くしてみると、あなたの人生にも他者の人生にも思いがけない奇跡が起こるかもしれません」というヘレン・ケラーの言葉を思い出してください。奉仕の世界では、私たちライオンズが生活、地域社会、そして地球村に変化をもたらしています。

Wayne A. Madden

2012-13年度国際会長
ウェイン・A・マデン

THEME

リーディング・アクション・プログラム

マデン国際会長は、識字率向上と読書推進に寄与しようと呼び掛けている。開発途上国での教育支援がすぐに頭に浮かぶが、国内にはどのようなニーズがあるのだろうか。活動のヒントを探ってみる。

発展途上国の教育支援から視覚障害者の支援まで

読み書きが世界を変える力になる

「教育は人間の潜在能力を引き出す鍵です。そして教育の基盤は読み書きが出来ることです。世界には実に多くの書物があり、それらを読むことは可能性の世界を広げてくれます」

マデン国際会長は、読み書きを学ぶことが人生においていかに重要であるかを強調する。

識字というと、発展途上国だけの問題と捉えられるかもしれないが、リーディング・アクション・プログラムでは、例えば、地域の学校や図書館に書籍やコンピューターを寄付する、図書館で子どもに読み聞かせをする、といった活動で、地域に奉仕することが出来るとしている。ここでは、発展途上国での教育支援、読書の推進、在留外国人の日本語習得支援、視覚障害者支援の4分野で国内のライオンズが実践している事例を紹介する。現状や課題を把握し、私たちに何が出来るのかを考えてみよう。

非識字は宿命ではない

読み書きが出来ないことは、負のスパイラルを生む元凶だと言われる。すなわち、非識字→仕事が限られる→収入が不十分→子どもに教育を受けさせられない→子どもも非識字になる、というものだ。

学校に通えない子どもは1億人以上。その多くは発展途上国におり、また都市部よりも地方、男の子よりも女の子、宗教や民族的なマイノリティーに位置付けられる人々が、より厳しい環境に置かれている。家が貧しくて収入を得るために働かなければならなかったり、学用品が買えなかったりするだけでなく、子どもが勉強することを親が必要ないと考えている場合もある。

しかし非識字は宿命ではなく、克服可能なものだ。そして悪循環を断ち切るには、子どもに教育を受けさせることが最も重要で有効な方法なのだ。

東京文京ライオンズクラブ（八幡隆美会長／16人）は、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）の協力を得て、カンボジアでの教育支援活動に取り組んでいる。

ライオンズが支援する学校で学ぶ子どもたち(カンボジア・プノンペン)

カンボジアは91年、20年間に及んだ内戦が終結、平和協定が締結された。しかし、ポルポト政権時代に行われた教育廃止や教育関係者への弾圧などの痛手が大きく、教育環境は壊滅的と言えるほどの状況になってしまっていた。

当時、同クラブは結成30周年を控え、21世紀に向けての方向性を模索していた。そこでカンボジアへの教育支援に焦点を定め、コミュニティーの柱となる小学校を建てることにした。場所は、内戦でタイへ逃れていたカンボジア難民が国内に戻る際、最初の集結地となるパーンアンビル村に決めた。

「当時は内戦後の大混乱で、クラブも現地も手探り状態。でも最初から、何を教え、学ぶかは当人たちに任せようと考えていました。私たちがその国、地域の文化の機微を完全に理解することは出来ないからです。私たちはハード面の支援に徹しようと」

活動の中心を担ってきたL吉田實は言う。

クラブはこの20年間で着々と環境を整えてきた。木造校舎と鉄筋コンクリートの校舎各1棟、屋外トイレ2棟、井戸1基、雨水の貯水槽2基、学用品や運動用具、鎌やすきなどの農機具の提供、学校の周囲での植樹。更に「牛銀行」という制度を発案し、つがいの

牛を贈呈、飼育と繁殖、そして売却により現金収入を得られるようにした。

「正直、自立にはまだ遠い。国の経済発展が農村部に波及するほどには進んでいないし、おっとりとした国民性もあるのでしょう。それでも現在、5人の卒業生が教師として母校に赴任しました。大学に進学した生徒もいます。牛は6頭になりました。これからも焦らずに続けていくつもりです」

●

ラオスもまた、歴史、地理、経済など、さまざまな要因で教育環境の整備が遅れている国の一つである。

東京文京ライオンズクラブが支援しているパーンアンビル村の小学校。中央の先生は同校の卒業生だ

05年、福岡那の香ライオンズクラブ（日野恭子会長／23人）のライオン末松和子は、福岡アジア文化賞の表彰会場で、以後のクラブの活動に大きく関わるチャンタソン・インタボンさんと出会った。「NPO法人ラオスのこども」を設立し、教育の普及に力を注いでいた人物だ。ラオスには書店も図書館もほとんどない。ラオス教育省統計によると小学1年生の落第率は30～40％。子どもの文字習得の遅れが基礎教育普及の大きな壁になっていた。

「女性クラブである私たちは彼女の活動に深く共感し、同国の子どもや女性のための支援に参加することにしました。結成10周年を迎えようとしていたのも良い機会でした」

「ラオスのこども」では図書室をHA（ハック・アーン）と呼ぶ。ラオス語のハック＝愛する、アーン＝読む、から、愛読という意味が込められている。クラブは08年に最初のHAを完成させて以来、小学校から高校まで5校にHAを作ってきた。これらの学校に通う生徒の総数は3千人近くになる。

図書室開設に当たってはセミナーを開き、図書の登録や管理運営方法、貸出カードの使い方、授業での図書の活用方法や本の読み聞かせの方法などを学ぶ機会も提供している。こうした目の行き届いた活動ぶりに、クラブは全幅の信頼を置き、今期15周年の記念事業でも支援を決めた。そしていつか、HAを開設した学校を訪問するのを楽しみにしている。

読む、聞く、想像する力を育てる

識字率99・5％と世界最高水準の日本では、よく「読書離れ」「活字離れ」が言われる。今の子どもたちは本当に本を読まなくなっているのか？　全国学校図書館協議会と毎日新聞社が毎年実施している「学校読書調査」によれば、小中学生の読書冊数は10年前から緩やかに増加し、1カ月間に1冊も本を読んでいない不読者は減少傾向にある。これには、全国で2万5千校以上が行う「朝の読書」など、学校や図書館による取り組みの効果が大きいと考えられている。地域の学校や図書館に「ライオンズ文庫」を設ける、といった各地のライオンズクラブの活動も、一役買っているかもしれない。

その中でもユニークなのが、北海道・帯広平原ライオンズクラブ（伊賀正会長／38人）の「たばこ一本文庫基金」だ。ホテルやレストランでの喫煙が当

たり前だった1973年、クラブは「例会場ではたばこを吸わない」と決議。禁煙で節約になったたばこ代を文庫基金として帯広市立図書館に贈ることにした。以来39年、今年6月までに寄贈した額は450万円に上り、3550冊の本となって子どもたちの成長の一助となっている。

時代の流れで喫煙率が低下、クラブの喫煙者も今では5人のみ。「たばこ代節約」基金が集まらないのでは、の心配に矢吹定夫幹事の答えはこうだ。

「1年間で12万円寄贈を目安にしていますが、会員にはすっかり習慣として身につき、『吸ったつもり』で全員が協力しています。39年間の実績を誇りに、これからも継続していくことをメンバー一同確認したところです」

●

千葉県・富里ライオンズクラブ（金箱英一会長／24人）は、富里市教育委員会と市立図書館が共催する「ブックトリップ～本の旅～」を支援している。市内の小中学生が本に親しむきっかけを作ろうと、7年前に始まったブックトリップは本のスタンプラリー。市立図書館が発行するブックリストから選んだ本を読み、その本に関する質問に答えられたらスタンプがもらえる。小学生は5冊以上、中学生は3冊以上のスタンプで「ブックトラベラー」として表彰される。質問に答える子どもたちの表情からは、楽しんで読書に取り組んでいる様子がうかがえるという。

市教育委員会から協賛の依頼を受けたクラブは、この活動に賛同し、ブックトラベラーに贈る記念品を提供している。支援を始めた09年度は288人にマグカップを贈呈。ブックトラベラーの数は年を追うごとに増加し、昨年は600人に達した。

「読書に励む子どもたちの数が年々多くなり、会員は活動に参加出来て良かったと喜んでいます。子どもたちには読書を通じて広い知識を持ってほしい。またこの活動を通じて、ライオンズクラブの意義もPR出来ると思います」と、金箱会長は話す。

●

子どもたちの聞く力や想像力を育て、本への興味を育む読み聞かせに取り組むクラブもある。新潟県・三条中央ライオンズクラブ（伊藤高史会長／54人）は06年度から、三条市立上林小学校の1年生児童に読み聞かせのアクティビティを行っている。年間に4回から5回、「朝の読書」の時間に教室で本を読み聞かせ、読後の感想を聞いたり、メンバーの思いを伝えるという活動だ。

三条中央ライオンズクラブによる小学校での読み聞かせ事業。大人の目線ではなく、子どもの年齢に合った本を選ぶことが難しいという

事業を提案した当時の社会福祉委員長土田美千代（今年度幹事）は、地域で読み聞かせのボランティアをしていた。この活動には、子どもたちに、より良く生きるための何かを感じてもらうと同時に、大人の側にも得るものがあると言う。

「家では子どもに本を読み聞かせる機会が少ない若いメンバーも、昔は本を読んであげていた先輩メンバーも、一つになってのアクティビティです。子どもたちの楽しそうな顔を見て、こちらが元気をもらっています」

地域に暮らす外国人との架け橋に

必要とされるのは、子どもを対象にした支援とは限らない。日本で暮らす外国人の中には、日本語の読み書きが思うように出来ず日常生活に不自由を感じている人がいる。2011年度末の外国人登録者数は208万人。20年前の122万人から約7割も増加し、多国籍化も進んだ。

「外国人を親に持つ小、中学生に、連絡の書類を渡しても意思が通じず困っている。行政では日本語学校を立ち上げることは出来ないので、ライオンズクラブで日本語を教える場を作っても

らえないか」

京都府・舞鶴ライオンズクラブ（富永明会長／44人）へ、舞鶴市教育委員会からこんな話が持ち込まれたのは13年余り前のことだ。当時、舞鶴市在住の外国人は3千人を超え、日本語の読み書きや会話が十分に出来ずに不自由な生活を送る人が少なくなかった。日本語の会話が不十分なために意思の疎通が難しく、家族間の関係がスムーズにいかない、周囲の住民に溶け込めずに外出もしない、という状況に陥っている例もあった。

1999年、クラブは市内に暮らす外国人のための日本語学校「かもめの学校」を開校した。授業は月4回、毎週土曜日午後の2時間で、生徒のレベルに応じ初級、中級、上級のクラスに分かれて学習する。生活習慣や日本文化を学ぶ時間もあり、中でも家庭料理の体験実習は生徒たちに大好評だ。教科書の選定や指導は退職校園長会が、会場の確保は舞鶴市教育委員会が担当。授業は無償だが、受講1回につき100円を徴収して行事費に充てている。この13年間に登録した生徒数は述べ227人で、その多くはフィリピンや中国などから日本の家庭に嫁いだ女性たちだ。幼い子どもを抱える母親のために託児の受け入れ態勢も整えた。当初は会員が面倒を見ていたが、3年目からはシルバー・センターへ委託した。

こうしたきめ細やかな支援に、生徒たちからは「こんな学校があるのを知らなかった。もっと早く来ていればよかった」「日本語を教わるだけではなく、社交の場を持てるのが楽しみ」「家庭や仕事場の悩みも聞いてもらえる」と喜びの声が上がっている。

富永明会長はこの事業について、次のように語っている。

「先生方は退職校園長会の中に指導者部会を設けて教育プログラムを策定され、授業後に必ず打ち合わせや反省会を開かれるなど、頭が下がるほど熱心に取り組んでくださっています。クラブとしては予算がかさむこと、毎週の授業日に会員2人で受付担当をしなければならないことなど大きな負担ではありますが、他方では先生方の熱心な教育を目の当たりにし、生徒さんの喜んで通ってくる姿を見て、良い奉仕活動だと自負しています」

「かもめの学校」は毎年9月に修了式と入学式を行う。今年は9月29日、35人の生徒が修了した

視覚障害者の読むこと、生きること

私たちが得ている情報の80％は、視覚から入るのだそうだ。ゆえに視覚障害者は情報障害者であるとも言われる。視力保護に力を入れるライオンズだからこそ、識字推進に取り組むに当たり、視覚障害者の問題にも目を向けたい。

和歌山県・御坊中央ライオンズクラブ（柏木伸彦会長／43人）は30年以上前から、視覚障害者に「声の広報」を届ける木蓮会をサポートしてきた。実は木蓮会とはライオンズ会員夫人の有志によるグループだ。結成当時に木蓮が見頃だったことと、クラブ例会が木曜日であることから、そう命名された。

市の広報「ごぼう」を音読・録音し、視覚障害者に届ける活動を始めたのは1981年。「何か私たちに出来ることはありませんか」と福祉事務所を訪ねたことから始まった。以来32年間、1号も欠かしたことはない。

作業はこうだ。毎月20日ごろ、市から広報の校正刷りが届く。1回目の会合で担当箇所の割り当てを決め、各自自宅で練習をする。2回目の会合では全員が集まり、それぞれ担当箇所を読み上げて、気づいたことを挙げて確認し、分からないことを調べながら、正確に分かりやすく聞いてもらえるように練習する。3回目は録音作業。出来上がったテープはダビングし、市の福祉課を通して視覚障害者に配布される。

「現在会員は9人。それぞれ仕事があるので夜8時に集合して作業しています。これからももっと勉強して、聞いてくださる方に喜んで頂けるようがんばりたい」（代表・山本美恵子さん）

その努力が評価され、御坊市の優良社会福祉団体として、また全国広報広聴研究大会でも表彰されている。

●

三重県・松阪ライオンズクラブ（野呂純一会長／61人）は2000年、クラブ結成40周年記念事業として、市の図書館に視覚障害者のための録音図書コーナーを設置した。利用者が希望する図書の他、広報や社協だより、新聞、市内各所のごみの分別日程などを音訳、貸し出しをしている。音訳に当たっては、朗読ボランティア団体「音訳グループまつさか」の協力を得、音訳機材を贈呈した。

視覚障害者のために「声の広報」の活動を続ける木蓮の会と御坊中央ライオンズクラブ

現在約50人がこのコーナーを利用している。当初カセットテープだった録音は、近年パソコンでのDVDデータ作成に進化。iPodなどに落として使用出来、便利になった。クラブは更に便利に、喜んでもらえるように、録音図書の充実を目指している。

●

視覚障害者にとっては読み書きについてどんな問題があり、サポート環境などはどうなっているのか。「読むこと・生きること」という言葉を掲げて情報バリアフリーを呼び掛けている、読書権保障協議会の田中章治委員長にお話を伺った。

「見えない、読めないために情報障害者となっているのは視覚障害者だけでなく、高齢のために目が見えにくくなる人、認知症になる人や、学習障害者、知的障害者などもいます。急激な情報化、高齢化が進む現代社会で、その数は急増しているんです」

役所から支援制度についての手紙が届いても、何の手紙か分からない。提出書類が書けず、制度の恩恵を受けることが出来ない。電気料金などの支払い期限通知が読めずに止められるなど。

情報障害者はまた、災害弱者にもなりうる。例えば東日本大震災では、避難所で重要な情報が紙媒体で張り出されたり、テレビの画面上のテロップで給水時間やスーパー、ガソリンスタンドの開店状況を流し続けても、それに気付くことが出来なかった。

「そうしたことを、『仕方がない』とあきらめている人も少なくありません。でも自由に情報が得られるのは誰もが持つ権利です。自由な読み書きが保障される社会作り『読書権保障』を求めて私たちは活動しています」

身近な所で必要なサービスが受けられるようになるには、公共図書館や介護施設、デイケア・センターなどに代筆・代読の支援員がいることが望ましいという。

「代読・代筆には技術はもちろん、守秘義務も求められます。私たちはそうした読み書き情報支援員となるための必要事項を学んでもらう2日間の講習会を開催しています。一人でも多くの人に支援員になってもらいたい」

あなたの地域にも、読む、書くための支援を必要としている人がいる。

「リーディング･アクション･プログラム（RAP）」ビデオ

RAPビデオを投稿しよう!!

国際会長テーマに沿ったアクティビティをしながら、会員同士楽しむ方法を一つご紹介しよう。もし、これがまんまと成功すれば、クラブには特別なアワードが贈られることになるかもしれない。

撮影協力／330-A地区青年アカデミー委員会

RAPビデオを作ろう

アクティビティを実践したら、RAPビデオにも挑戦してほしい。2分以内で、どのように子どもたちが読み書き出来るようにするかをテーマとしたラップ・ミュージックビデオだ。ラッパーはライオンズかレオに限られる。1位に選ばれた作品は来年のハンブルク国際大会で上映され、表彰される。

昨年、「Rockin' the vest」というライオンズのラップ・ミュージックビデオがユーチューブで公開され話題になった。さすがにこのレベルのものを1クラブで作るのは大変だが、動画を作ること自体は難しくない。近年はデジカメでも動画が撮れるし、動画編集ソフトの質も上がってきている。マイクも安価で質の良いものが増えてきた。アクティビティの写真をスライドショー形式で流す程度ならば、編集も簡単だ。また、インターネット上には誰もが自由に使用出来ると明記された著作権フリーの音楽も多数ある。そこからリズミカルな曲を選び、歌詞を書いて歌えば思ったよりも簡単に動画を作れる。

動画の作り方を学べば、今後クラブのPR方法の選択肢も増える。まずはやってみるといいだろう。

ラップの歌詞には韻が必要

ラップ・ミュージックの歌詞で「韻を踏む」ことは重要だ。「韻を踏む」とは、簡単に言えば、同じ母音の単語を重ねることである。例えば「状況」と「行動」は韻を踏んでいる。普段生活している中で韻を踏むことはあまりないが、「ふとんが吹っ飛んだ」や「坊主が屏風に上手に坊主の絵を描いた」などダジャレや早口言葉などは韻を踏んでいる。最初は難しいが、辞書を引いたり、パソコンの誤変換から発想を広げたりすれば韻を踏んだ言葉が見つけやすい。そこから言葉遊びのつもりで取り組んでみると面白いだろう。

辞書などを使えば書きやすい

投稿してみよう

動画が出来たら、公開してみよう。今回、国際本部に提出するRAPビデオ推薦書にはユーチューブのURLを記載する項目があるため、ユーチューブに動画を公開する。まずはユーチューブのアカウントを作成する。その際、メールアドレスが必要になるが、Gメールのアドレスを持っていたら、それを登録する。その後、「アップロード」をクリック。「このページ上に動画をドラッグ&ドロップするとアップロードが始まります」の指示通りにするか、「パソコンからファイルを選択」という場所をクリックし、公開するファイルを選べばいい。そうすればファイルがアップロードされ、公開される。

その後、動画のタイトルやカテゴリなどを設定すれば完了だ。国際本部ホームページからダウンロード出来るフォーム(http://www.lionsclubs.org/JA/common/pdfs/RAP_video_form.pdf)に動画のURLなど必要事項を記入してFAXかEメールで送付する。そうすれば国際協会の公式ユーチューブ・チャンネルに2013年2月1日から掲載される。ここには世界各国からRAPビデオが投稿される。

ぜひ投稿して自分たちの活動を世界に発信しよう。

【歌詞の例】

朝起きて新聞を読む
昨日のメールに眼を通す
そんな誰もが過ごしている日常
当たり前の毎日広げていこう

世界では多くの人たちが
文字の読めない非識字者
どうしようもなく読もうともがく
それでも分からない教育が受けられない
そんな事態見たなら何かしたい
彼らの未来変えたい
何か出来ることはないか
考えた末たどり着いた
とある海外山奥の小学校
送り届ける母国語の教科書
文字が読めない子どもたちの状況
少しでも変えたいと願っての行動

韻を踏むことは大切。だが、内容を伝えることも大切だということは忘れないように

情報を読み解く力から発信能力まで

変化するリテラシーの概念

「リーディング･アクション･プログラム」のベースになっている「リテラシー」という言葉は、かつては文字を読み書きする能力である「識字」を意味していた。が、時代と共にその概念は変化している。

情報を批判的に読み解く能力

「二つの雑誌を見比べてください。どこが違うか、お分かりになりますか」

ライオンズクエスト・プログラムの日本導入に関わった、日本でのライフスキル研究の第一人者・川畑徹朗神戸大学教授は、この話題で講演を始めることが多い。雑誌はいずれも女性モデルが表紙を飾っている。1冊は1970年代のもの。もう1冊は2000年代の雑誌だ。聴衆からはさまざまな答えが出るが、正解は「モデルの体型」。「2000年代の方が痩せている。というより明らかに痩せ過ぎです。女性がダイエットを目指すのは、メディアを通してこうした痩せ過ぎの女性を目にする機会が多いことも要因の一つ」

川畑教授はそう解説する。

教授が指摘するように、雑誌、テレビなどのメディアや広告により、人は多くの影響を受けている。ダイエットに効果がある、とテレビ番組で紹介された翌日から、納豆や寒天、バナナが品不足になるという現象があったことを覚えている方も多いだろう。

そこで、さまざまなメディアが伝えるメッセージや情報を、批判的に読み解く能力「メディア・リテラシー」が注目されるようになった。

最初にメディア・リテラシーについての社会的な動きが起こったのは、カナダだと言われる。映画やテレビを通じてアメリカ文化が流れ込み、生活様式にも影響を及ぼし始めた。そこで、カナダの人たちが自分たちの文化を守ろうと運動を始めたことが、メディア・リテラシー活動の原点なのだという。その後、1980年代後半から、カナダのオンタリオ州ではこれを一歩進めて、学校教育にメディア・リテラシーを導入している。

報道には必ず「意図」がある

マスメディアには信頼性や中立性が求められ、そこから発信された情報、特に新聞やテレビの報道に対し、人々は「現実」「真実」と受け止めがちだ。新聞通信調査会が2010年に実施した「メディアに関する全国世論調査」でも、各メディアの信頼度として1位NHK73・5点、2位新聞72・0点、3位民放テレビ65・3点という結果が出ており、新聞やテレビに対する信頼度はかなり高いことが分かる。

が、実際には完全な客観報道はあり得ず、程度の差こそあれ、そこには何らかの意図が込められている。そこで、情報には誇張や偏り、ひどい場合は間違いや嘘なども含まれていることを知り、情報の背景や、発信者の意図、目的といったことを的確に読み取る能力が必要となってくるわけだ。

例えば本誌でも、取材で聞いた話の全てを掲載しているわけではない。もちろんスペースの関係もあるのだが、そのアクティビティを強調するため、発言の一部を取り上げることがある。

写真一つとっても、出来上がった写

同じ場所や場面でも、撮影者の意図によって、全く異なるものになる。上下2枚の写真はいずれも釜山国際大会開会式のフラッグセレモニー時に撮影したもの。開会当初は巨大な会場がライオンズで埋め尽くされていたが、フラッグセレモニーが始まる頃には上の写真の通り圧倒的に空席が目立つ状態。が、人がいる場所のみフレーミングして写せば、下の写真のように多くのライオンがプログラムを楽しんでいるように映る

真の一部を切り取るトリミングや、撮影時に対象物を中心に撮るフレーミングなど、編集者やカメラマンは明確な意図を持って行っている。

右の2点の写真をご覧頂きたい。国際大会開会式のハイライト、フラッグセレモニーの際に撮ったものだ。雰囲気を伝えるなら下の写真を使用するし、プログラムそのものを報道するなら舞台だけをアップにした写真を使う。が、史上最大の約5万5千人が登録し、開会式も当初は大勢のライオンズで埋め尽くされたものの、プログラムが進むにつれ人が減り、フラッグセレモニーの時にはこの状態、と参加姿勢を問題視するとか、開会式のプログラム構成を考えるきっかけにするには、空席を強調した、上の写真を使うだろう。

このように写真の撮り方であるとか、映像の編集であるとか、情報伝達手段としてのメディアの特性を理解した上で、情報を自主的に判断して活用する能力を身に付けることも、メディア・リテラシーでは重要視される。

ではメディア・リテラシー教育とは、具体的にどんなことをすればいいのだろう。身近な例で見てみよう。

ライオンズクエスト・プログラムでも採用

ライオンズクエスト・プログラムでは、単元6授業7に「タバコとアルコールの広告を見抜く」という時間がある。ライオンズクエストのテキストによると、この授業は、

「若者の喫煙や飲酒の防止を困難にする大きな問題、それはタバコやアルコールが大人に合法であること、そして常に膨大なお金をかけて、あたかも若者をターゲットにするかのように宣伝されていることである。若者たちは、これらの薬物の親しみやすさや楽しさをアピールする強力な広告に日々触れているのである。

本時は、タバコやアルコールの会社から広告を通じて送られてくるイメージやメッセージを見抜き、若者がいかにこれらの広告の的になり操作されているかを気付くための学習である。生徒たちは広告をしっかりと見極め、人を惑わせるイメージを明らかにし、より正しく信頼出来る知識を元にこれらの広告の問題点を明らかにしていく」

とある。そして授業の中で、生徒たちと一緒にアルコールとタバコの広告

を分析し、事実に照らしながら、薬物を勧めるメッセージに対抗する方法を学んでいく。仮にクラブとしてメディア・リテラシーに取り組む場合、薬物乱用防止教育の中で、ライオンズクエストの授業を参考に、実例を挙げて考えてもらう方法もあるだろう。

ネット社会で注目される情報リテラシー

メディア・リテラシーはインターネットの普及によって「情報リテラシー」と重複する部分が多くなっている。インターネットの普及は情報伝播において、グーテンベルグによる活版印刷の発明と同じぐらいの劇的変化を引き起こしたと言われる。特に、従来は特定の業種の人のみが担ってきた情報の発信・公開が、いつでもどこでも誰でも行えるようになった。

その一方、ネット社会はさまざまな負の部分も生み出してしまった。例えば、昔なら教室の黒板に相合い傘を書いて、クラスの男の子と女の子をからかうといった、かわいいいたずらが中心だった。が、今では簡単にネット上に個人情報をさらすことも出来る。後者はいたずらなどではなく、もはや犯罪である。にもかかわらず、子どもばかりか大人の中にも、その区別がついていない人が多くいる。つまり、現在のネット社会においては、情報を読み解く能力だけではなく、情報発信能力や、その際に求められる責任なども、きちんと学ぶ必要があるのだ。

また、インターネットの普及によって、人々は膨大な情報に触れることが出来るようになったが、その一方で、情報難民という言葉も生まれている。

ライオンズクラブでも、国際本部からの情報はほとんど電子メールで送信され、必要な書類は公式ウェブサイトからダウンロード出来るようになっている。更にはフェイスブックやツイッター、ユーチューブといったソーシャルメディアを通じて、さまざまな情報が本部から発信されている。が、インターネットを使いこなせない人たちは、これらの情報に接することが出来ない。

こうした状況の中、アクティビティとして子どもたちや高齢者向けにパソコン教室を開いたり、ネットモラル委員会を立ち上げて、メンバーも含め地域の保護者や教育関係者を対象に勉強会を開いているクラブもある。

時代と共にリテラシーの概念が変わり、新たなニーズも生まれている。立ち止まっている時間はない。

ウェイン・マデン国際会長公式訪問
奉仕の世界に生きるライオンズ

ウェイン・マデン国際会長とリンダ夫人が来日し、9月21日、東京都千代田区のパレスホテル東京で330・331・332・333複合地区公式訪問が行われた。当初は東西の2カ所で開催予定だったが、マデン会長の都合により来日の日程が遅れ、334・335・336・337複合地区公式訪問は急きょ延期されることとなった。約550人が出席した東日本公式訪問ではまず、日本からの国際第2副会長誕生に大きな期待を表明。自らの方針を伝える講演の後には、クラブ会長との質疑応答が交わされた。マデン会長の講演要旨を収録する。

国際第2副会長に就任して以来2年2カ月にわたり、世界各地を旅してライオンズの活動を目にしてきました。そして確信したのは、平和の礎になるのは、私たちのような奉仕組織であるということです。

私はライオンズクラブが世界で最も大きな奉仕団体であることよりも、世界で最もすばらしい奉仕団体であることを誇りに思っています。最良の奉仕組織であり続けるために、例えばメルビン・ジョーンズの草創の精神といった、私たちが受け継いできた遺産を大切にしながら、視力ファーストのような新たな伝統を築いています。そして更なる高みを目指すには、今までの慣習を変えていくべきところもあるはずです。私たちは変革者とならなければなりません。

リーディング・アクション・プログラム

世界の成人のうち26％が非識字者です。非識字者とは、自分の名前が書けない、10歳程度の読み書きが出来ないという状況です。そして、これは途上国だけの問題ではありません。世界のどの国でも見られる問題なのです。私の国、アメリカでも7人に1人は非識字者だと言われています。リーディング・アクション・プログラム（RAP）の下、皆さんには自分たちの地域にどのようなニーズがあるかを検証し、この問題に取り組んで頂きたいのです。

ただ文字が読めるというだけでなく、

子どもたちが読書が出来るように導いてあげることも必要です。例えば、地元の子どもたちを集めて、30分だけ読み聞かせを行うことも効果があるでしょう。音読は読解力を深めるのに役立ちます。また、視力に障害のある人たちの読解を助けることも出来ます。点字の読み方を教えたり、ラジオなどを通じて音読をしたりすることによって視力に障害のある人も読書が出来るようになります。更に成人であっても、子どもの頃に十分な教育を受けられなかった人たちも、支援の対象となり得ます。

もちろん私たちの活動だけで世界中の識字の問題を全て解決出来るとは思っていません。ですが、少しでも状況を改善することは出来ます。

何をしたらいいか分からない、という人はぜひ協会ウェブサイトのリーディング・アクション・プログラムのページを見てください。ここには非識字者に援助の手を差し伸べるためのさまざまなアイデアが詰まっています。そして、それらを参考に奉仕活動を行ったなら、それぞれの活動をRAPビデオに編集し投稿してください。

奉仕し続けるために不可欠な会員増強

この10年間、毎年20万人の新会員が誕生しています。一方で、毎年19万人の退会者がいることも事実です。考えてもみてください。この10年間で失った会員数は、今の世界の全会員数よりも多いのです。昨年を例にすれば、退会者の5人に1人を引き止めることが出来たなら、世界の会員数は10％以上増えていたことになります。私たちが最良の奉仕団体として活動していくためには、チームワークをもってメンバーをクラブに引き止めていかなければいけません。地区ガバナーは、地区ガバナー・チームをうまく機能させ、GMT、GLTの二つのチームと協力してください。かの自動車王フォードは「一緒に集まることは始まりであり、一緒に続けることは進歩であり、一緒に働くことは成功である」と言いました。まさにその通りです。

22日には東日本大震災の被災地、宮城県石巻市を訪問し、津波犠牲者に哀悼の意を捧げた

我々がこれからも世界に奉仕し続けていくためには、会員増強は必要不可欠です。それはほしか撲滅のような大規模な活動のためだけではありません。高齢の人にドアを開けてあげたり、買い物を代わりにしてあげたりといった小さな親切も非常に大切なのです。

以前、マケドニアでレオクラブのメンバーと話す機会がありました。会議の後に一緒に昼食をとりましたが、その時、彼らは奉仕プロジェクトの話をしていました。彼らがまず初めに話していたのは奉仕を行うためにどうしたら資金を集められるか、ということでした。そこで私は資金がなくても出来る活動はたくさんあると申し上げました。例えば、公園の管理、清掃を引き受け、子どもたちが安全に遊べる場所にするようなことは多くの資金を必要とせず、多くの人に喜ばれる奉仕です。こういうシンプルな奉仕こそが、これまで95年間のライオンズクラブの歴史を支えてきたのではないでしょうか。

会員増強を考えた時に、どうやって若い人に入ってもらえるのだろうか、という壁にぶち当たることがあります。私が思うに、若い人に入ってもらいたいのならば、若い人が居るところにこちらから出向くべきです。そうでなければ若い人は増えません。とはいえ、何も皆さんにディスコや学校に行ってくれ、と言うわけではありません。

彼らが今、何に一番時間を費やしているか、ということを考えてみましょう。今や若者が多くの時間を費やしているのはフェイスブックやツイッターなどのソーシャルメディアです。国際協会でも、こうしたソーシャルメディアに参加しています。それほど広告費をかけずとも、バナー広告のような形で、異なるソーシャルメディアに多くの広告が出せることも分かりました。

ライオンズに関心を持っている人は大勢います。ですが、その人たちの多くが私たちの活動を知りません。多くの人に私たちの活動に触れられる機会を提供することが必要です。

被災地のライオンズは今

332-C地区（宮城県）

被災体験と支援のノウハウを共有する 全国アラート・フォーラムを開催

東日本大震災から1年半が経った9月11日、332・C地区（宮城県／佐藤義則地区ガバナー）の主催で「ライオンズクラブ・オールジャパン・アラート・フォーラム」が開催された。佐藤ガバナーが前年度から計画を練り、釜山の地区ガバナー・エレクト・セミナーの折に、各地区ガバナー・エレクトに協力を要請。満を持して、この日を迎えた。

フォーラム前後には、被災地を視察してもらおうと、11日午後に岩沼市、名取市、仙台市若林区を、また翌12日午後は石巻市と女川町を訪問。それぞれ、地域のライオンズから被災の様子と現在の状況などを聞いた。

特に、人口の1割近い約600人が犠牲となった名取市閖上（ゆりあげ）地区ではバスを降り、鎮魂の丘・日和山に建てられた仮設神社（神籬（ひもろぎ））に参拝。この日が月命日に当たっていたことから、東北地方太平洋沖地震発生の14時46分、参加者全員で海に向かって黙祷を捧げた。1年前の8月31日には、当時のウィンクン・タム国際会長もこの日和山を訪れ、仮設神社に献花。その後、訪問した名取市の美田園第2仮設住宅では「私たちライオンズは皆さんの力になれるよう、必ず皆さんの後ろから付いていきます」と、住民一人ひとりの手を握りながら、語り掛けていた。各地から集まった会員たちも、タム前会長と同じ思いで、この地に立ったに違いない。

全国規模でアラート体制を整備するために

フォーラムは日本三景の一つ、松島を臨むホテル一の坊で開催された。地元332・C地区出身の秦従道国際理事と田畑英伍332複合地区議長、東日本大震災復興支援対策本部長の山浦晟暉元国際理事を始め、北は北海道・函館の奥山幸一331・C地区ガバナーから南は鹿児島の増田敏雄337・D地区ガバナーまで、全国18地区の29クラブ54人、主催の332・C地区24クラブ45人を加え、約100人が参加した。

阿部浩332・C地区アラート委員長の開会宣言の後、佐藤地区ガバナーのあいさつや震災当初の報告などに続き、平山優同地区アラート委員から「東日本大震災から学ぶ332・C地区からの提案」が発表された。提案は「現状把握」「緊急事態におけるライオンズクラブの果たすべき役割について」「行政機関やNGOとの連携強化」「各地区において機能するアラート組織を構築するために」「全国規模で災害ネットワークの組織化を図る」の5点。

前半3点については、それぞれクラブ、ゾーン、リジョン、地区、複合地区、全日本と、各レベルごとに現状や役割、対応を示した。

また「地区において機能するアラート組織の構築」では具体的な確認事項を提示しながら、最後の「全国規模で災害支援ネットワーク」に向けて問題提起。東日本大震災では「千年に一度」、「想定を超えた」、「未曽有」などの言葉が目立ったが、近い将来、必ず起こると言われている南海トラフ地震などの大災害ではそんな言葉が聞かれないように備え、今後も全国レベルのアラート・フォーラムを開催し、ネットワーク形成に向けての体制作りを急ぐべきではないかと結んだ。

次いで「阪神・淡路からの提言」として、1995年の阪神・淡路大震災を経験した、橋本維久夫335・A地区災害支援特別委員長が登壇。阪神・淡路大震災を始め、その後の大災害において実践した被災地支援活動を報告した。その中でライオン橋本は、ある水害での活動を一つの例に上げ、有志により構築されたライオンズ専用のソーシャルネットワークを通じて、即座に全国500クラブからタオルの支援が被災地へ寄せられたと紹介。が、ある地区ではクラブが独自に動くことを制止し、キャビネット会議にかけてから支援を実施したため、タオルが届いたのは現地のボランティア・センターが解散した後だったという。そうした例を踏まえ、ライオンズに緊急災害援助は出来るのか?と会場に問い掛け、理事会や例会にかけていたら、行動が遅くなる。災害時には「緊急対応」出来るよう、クラブ内の構造改革をすることも必要だろうと述べた。

その後、フォーラムのまとめをしたライオン阿部も、今回の東日本大震災では、発災時のライオンズの動きは、正直ばらばらだった。被災地のライオンズはそれを調整しながら、何とかやってきたのが実情。ライオンズの枠を超えた考え方をしないと、大規模災害には対応出来ないとし、今回、あえて地区を超えたフォーラムを呼び掛けたのも、それが目的だったと語った。

その発案者である佐藤地区ガバナーは、「震災から1年半が経過しましたが、被災地の復興はまだまだ緒に就いたばかりです。そのため復興に向けた支援も当然お願いしたいのですが、その一方、次にどこかで何かが起きた時、被害を少しでも軽減し、またスムーズに支援活動が実施出来る体制を構築するため、被災地区としての経験を伝える責任があると感じていました。今回のフォーラムが、災害時におけるライオンズの全国ネットワーク形成につながることを期待しています」と、話していた。(取材/鈴木秀晃)

国際理事だより

■国際理事
秦従道
（宮城県・仙台コア）

国際会長公式訪問とRAP推進キャンペーン

9月19日、公式訪問のためにシカゴから成田に到着されたウェイン・A・マデン国際会長ご夫妻は、長旅の疲れも感じさせず、元気いっぱいのご様子だった。

翌日の歓迎夕食会席上、私はかねてから考えていたRAPに関するいくつかの質問を、会長に直接お聞きしてみた。RAPとは、会長テーマの中で掲げられているリーディング・アクション・プログラムのことである。詳細は後述するが、私のRAPに関する解釈が間違っていなかったことが確認出来たことからも、私にとって大変貴重な夕食会となった。

21日の東日本（330〜333複合地区）を対象とした国際会長公式訪問の予定は1時間30分という短い時間であったが、マデン会長のテーマ「奉仕の世界」についての演説や、クラブ会長との質疑応答も盛り込まれ、時間を延長するなど有意義かつ盛り上がったものとなった。

翌22日、国際会長ご夫妻、高田順一国際理事ご夫妻、武久一郎国際理事ご夫妻、河合悦子330複合地区議長、小生夫婦の9人は、東日本大震災現地視察のために仙台に入った。

田畑英伍332複合地区議長始め各準地区ガバナーの出迎えを受けた後、被災地石巻を訪問。地元・石巻、女川のライオンズ・メンバーの歓迎を受け、被災状況の説明を聞いた後、犠牲者のために献花して頂いた。誠にありがたいことである。

その後仙台での歓迎夕食会では、改めて「奉仕の世界」の考え方やRAPについて詳しくお話し頂いた。

さて、前述したRAPに関する質問の概略は以下の通りである。

RAPのキャッチコピーの一つに「識字率の向上」という表現があるために、これは非識字率の高い発展途上国向けの話であって、教育先進国である日本などはあまり関係ないのではないか、という率直な感想を口にするメンバーが多い。が、子どもに対する読み聞かせ活動や教育条件における機会均等の問題は日本でも十分通用する課題ではなかろうか。

なぜならば、文字が読めても本を表面的になぞるだけでは、本当に読んだことにはならない。その本に含まれている深い意味を理解し内容を自分に取り込んで、それを応用するに至るとすれば、これはまさに高等教育の分野であり、相当な勉強が必要になることは間違いない。教育によって人材育成をして世界の平和と発展に役立てようというRAPの思想は、まさに地球規模の壮大なものではないだろうか。

RAPは日本でも十分に貢献するプログラムである。これが、私が夕食会で国際会長に確認させて頂いたポイントであった。

仙台での夕食会後、国際会長から3人の国際理事が召集された。席上、日本におけるRAPの目的達成のために、RAP推進キャンペーンが指示され、また国際理事3人はこれを了承した。

RAPの意義が確信された今、国際会長方針の遂行のために全力で邁（まい）進する所存である。

ライオンズニュースカセット

NEWS CASSETTE

被災地の子どもたちが描いた雄勝石絵が東京駅へ

東日本大震災で被災した宮城県石巻市雄勝（おがつ）地区の雄勝石を使った石絵がJR東京駅の丸の内南口地下に展示され、9月29日除幕式が行われた。牡鹿半島の北に位置する雄勝地区は、入り組んだ海岸線に押し寄せた津波で壊滅的被害を受けた。特産の雄勝石は、600年の伝統を持つと言われる雄勝硯（すずり）の他、屋根材に用いられ、復元工事で創建当時の姿が再現された東京駅丸の内駅舎の屋根にも使用されている。その縁で、NPO雄勝石復興プロジェクトが石絵制作を企画。同NPOから支援要請を受けた宮城県・仙台青葉ライオンズクラブが東京都内のクラブに支援を呼び掛け、東京飯田橋、東京数寄屋橋、東京ワンハンドレッドの各クラブを中心に、東京、東京志村、東京イーストの7ライオンズクラブが協力して、完成に漕ぎ着けた。108枚の石を組み合わせた石絵は、縦約1・9メートル、横2・5メートル。原画は雄勝石作家の齋藤玄昌實氏が手掛け、1枚1枚の着色作業は雄勝地区の4小学校、1中学校の児童・生徒150人が担った。朝日に輝く富士山が鮮やかな色彩で描かれて、復興に向かう勇気や希望が表現されている。除幕式にはライオンズの招待で制作に携わった子どもたち38人が出席した。報道陣や関係者ら200人余りが見守る中、大須中学校3年生の阿部亮輔君が「雄勝石は地域の誇りです。復興への希望と支援への感謝を込めて作りました。たくさんの人に見てもらい、私たちのことを思い出してほしい」とあいさつした。石絵は東京駅丸の内地下南改札の外、団体集合エリア横に設置されている。

日本からの国際第2副会長誕生に向けたマデン会長の期待

9月21日に開かれた330・331・332・333複合地区国際会長公式訪問において、ウェイン・マデン国際会長は日本からの国際第2副会長誕生への期待を表明し、次のように述べた。

「釜山で国際会長に就任した後、私は国際執行役員と国際理事を召集して、全会一致で山田實紘元国際理事の推薦を決めました。この推薦を受けて、山田元理事は各地域フォーラムに出席しておられます。3週間前にニュージーランド・クイーンズタウンで開かれた大洋州及びその周辺地域のフォーラム、2週間前にベルギー・ブリュッセルで開かれたヨーロッパ・フォーラム、そして先週、フロリダ州タンパでのアメリカ・カナダ・フォーラムでは、いずれも全会一致で山田候補者を次の国際第2副会長に推薦し、支援することが約束されました。今後予定されているフォーラムでも同様の推薦がなされることは間違いないでしょう。来年のドイツ・ハンブルク国際大会での選挙を経て、来年度は同じ執行役員として共に仕事が出来ることを楽しみにしています。ここからが非常に重要な点です。世界のライオンズが日本のライオンを国際第2副会長候補者として推しています。日本ライオンズがなすべき次のステップは、ハンブルク国際大会に大勢の会員が参加して大きな存在感を示し、山田候補者への支持を世界に示すことです」

2013-14年度国際第2副会長の選挙は、2013年7月5日から9日に開催される第96回国際大会で行われ、最終日9日に代議員投票が実施される。

333-A地区で初の女性フォーラム開催

9月28日、333-A地区（新潟県／田邊仁地区ガバナー）は、「第1回女性フォーラム」を開催した。南北に長い新潟県のほぼ中央に位置する長岡市に、北から南まで19クラブ、40人の女性メンバーが熱い思いを持って参集した。フォーラムは伊藤和子地区GLTコーディネーターの軽妙かつ温かみのある司会で進行し、田邊カバナー始めキャビネット役員14人の男性メンバーの面々は、いつもと一味違った華やかな会場を眼を細めて見守っていた。メーン・プログラムであるワークショップは「女性会員として居心地の良いクラブとは」をキーワードに、六つのグループに分かれてディスカッション。Tチャートの手法を用いて、各自が感じている入会して良かったこと、嫌な思いをしたことを洗い出した上で、①会員増強 ②女性会員を増やすためには？ ③女性会員の退会防止とは？ を話し合い、グループごとに発表した。参加者は初めて会ったとは思えぬほどの熱い時間を共有出来、新たにライオンズのすばらしさを認識し、会員を一人でも多く増やしていきたいとの思いを強くした。

若木肇地区GMTコーディネーターは「今回話し合った結果を各クラブにフィードバックして、実際どのように改善したら良いか、どのようにすれば会員が増えるのか、退会防止が出来るかを明らかにしていきたい」と述べられ、佐藤和正複合地区GMTコーディネーターからは「女性ならではの持ち味を出し、クラブの活性化に役立ててほしい」との力強い激励の言葉を頂いた。この女性フォーラムを今後も開催し、次回はより多くのメンバーに参加してほしい。新潟の地から、しなやかな女性パワーを発信していきたい。（情報提供／新潟千歳ライオンズクラブ・L大田朋子）

必要な支援を、迅速に。332-C地区がALERT掲示板開設

332-C地区（宮城県／佐藤義則地区ガバナー）は、災害に対応するインターネットの情報掲示板「ALERT掲示板」を開設した。「被災地の欲しいもの」「被災地へ支援したいもの」のページがあり、ここに書き込みを投稿することで、支援を必要としている側と、支援を行いたい側とが情報を共有・交換出

2011-12年度日本ライオンズ連絡事務所決算公告

貸借対照表（単位：円）　　2012年6月30日現在

科　　目	金額	科　　目	金額
Ⅰ資産の部		Ⅱ負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
現金	14,227	預り金	258,724
銀行預金	46,046,655	未払消費税	285,000
未収入金	0	未払金	240,105
前払金	214,263	流動負債合計	783,829
仮払金	0	2. 固定負債	0
頒布品	24,169	負債合計	783,829
流動資産合計	46,299,314		
		Ⅲ正味財産の部	
2.固定資産		1.指定正味財産	
(1)基本財産		基本金	50,000,000
銀行預金	50,000,000	2.一般正味財産	58,569,528
基本財産合計	50,000,000	正味財産合計	108,569,528
(2)特定資産	0	負債及び正味財産合計	109,353,357
(3)その他の固定資産			
敷金	11,263,392		
什器備品	5,077,252		
什器備品減価償却累計額	△ 3,286,601		
その他固定資産合計	13,054,043		
固定資産合計	63,054,043		
資産合計	109,353,357		

収支計算書（単位：円）　　2011年7月1日～2012年6月30日

科　　目	予算額	決算額	差　異
Ⅰ事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会費収入	24,720,000	24,973,560	△ 253,560
受取利息収入	2,400	2,597	△ 197
基本財産利息収入	16,000	16,044	△ 44
雑収入	0	1,200,000	△ 1,200,000
各種会議旅費分担金収入	10,050,000	8,216,376	1,833,624
頒布品売り上げ収入	18,600,000	18,750,220	△ 150,220
事業活動収入計	53,388,400	53,158,797	229,603
2. 事業活動支出			
①事業費支出			
議長連絡会議費	500,000	368,279	131,721
委員長連絡会議費	100,000	105,205	△ 5,205
議長連絡会議旅費	5,850,000	4,907,340	942,660
委員長連絡会議旅費	4,200,000	3,309,550	890,450
頒布品製作費・送料	14,200,000	13,912,854	287,146
②管理費支出			
会計監査旅費	700,000	544,960	155,040
国際大会･アジアフォーラム関係費	950,000	1,024,446	△ 74,446
人件費	16,200,000	16,298,000	△ 98,000
福利厚生費	3,400,000	3,378,425	21,575
印刷費	1,100,000	1,120,085	△ 20,085
通信費	1,550,000	1,479,045	70,955
旅費交通費	1,000,000	753,024	246,976
借室料水道光熱費	10,720,000	10,626,080	93,920
リース・レンタル料	1,970,000	1,900,500	69,500
事務用品費	500,000	471,639	28,361
図書費	70,000	66,526	3,474
顧問料	504,000	504,000	0
支払手数料	150,000	130,482	19,518
雑費	70,000	60,085	9,915
租税公課	270,000	285,000	△ 15,000
事業活動支出計	64,004,000	61,245,525	2,758,475
事業活動収支差額	△ 10,615,600	△ 8,086,728	△ 2,528,872
Ⅱ投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
Ⅲ予備費支出	0	0	0
当期収支差額	△ 10,615,600	△ 8,086,728	△ 2,528,872
前期繰越収支差額	53,602,213	53,602,213	0
次期繰越収支差額	42,986,613	45,515,485	△ 2,528,872

注：1. 複合地区会則に定める会費の日本ライオンズ連絡事務所費月30円は、2009-2012年度3年間のみ月20円になります。（2009年4月21日第9回議長連絡会議）
2. 複合地区連絡会議規定第6条により、各種連絡会議の出席者旅費は各複合地区が均等に負担されています。各複合地区が負担された旅費は「各種会議旅費分担金収入」に計上しています。なお、連絡事務所管理委員会および会計監査委員の旅費は、連絡事務所会費収入から直接支出してします。
3. 流動資産46,299,314－流動負債783,829＝次期繰越収支差額45,515,485

http://alert.332-c.com/report/

来る。掲示板では他に「被災地からの報告」のページもある。

8月承認の視力ファースト、ライオンズクエストの交付金

8月に開かれた視力ファースト諮問委員会で、22件総額474万8351ドルの視力ファースト交付金が承認された。アフリカ西部のギニアで、首都コナクリーの4クラブがフランスの支援組織と連携して取り組む眼科ケア・サービスと眼科ケア従事者の訓練プログラムのため、403・A1地区に136万4664ドル交付。またインドネシアの南スラウェシ州と中央スラウェシ州における眼科ケア・システム開発のため、307・B2地区へ52万2922ドルが交付された。

ライオンズクエスト諮問委員会では、13件69万9750ドルの四大交付金を承認。このうち日本は7件で、332・A地区（青森県）、332・C地区（宮城県）、332・E地区（山形県）、333・A地区（新潟県）、334・D地区（富山県・石川県・福井県）、337・C地区（佐賀県・長崎県）、337・D地区（鹿児島県・沖縄県）に、ワークショップ開催のためそれぞれ2万5千ドルが交付された。最新の交付金リストはLCIF公式サイト（www.lcif.org）に掲載。

会議録

第1回複合地区国際大会委員長連絡会議（8月7日/日本ライオンズ連絡事務所/出席者：桜井孝一、

瀧澤嘉門、阿部清基、塚田雅二、石井博之、杉江健次、三谷智省、林榮一各委員、杉浦均議長、不老安正第51回OSEALフォーラム委員長、井村一男同実行委員長）

①世話人、副世話人の互選②国際大会委員長連絡会議の任務及び実務について③第95回釜山国際大会④第51回東洋・東南アジア・フォーラム⑤第96回ハンブルク国際大会

第2回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（9月5日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：河合悦子、中嶋辛、田畑英伍、杉浦均、奥村啓二、寺越愼一、滋田繁晴各議長、萩原光義議長代理、秦従道、武久一郎両国際理事）

【第I部：議長協議】①マデン国際会長公式訪問②上位ライオンズ・リーダーシップ研究会（2013年1月11日～14日）③第51回OSEALフォーラム④九州豪雨災害について（337複合地区）⑤2020オリンピック招致について（330複合地区）⑥YCEについて（前年度申し送り事項）⑦日本ライオンズ連絡事務所運営関係⑧委員会・会議報告⑨その他

【第II部：国際役員との懇談】⑩「日本若獅子育英会」について

第2回ライオン誌日本語版委員会（9月7日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：武久一郎国際理事、久津間康允、茂尾実、中居雅博、小西宗仁、矢口武克、団英男、組嶽晶一、田崎登保各委員、荘英隆、辰巳博昭〈オンライン〉、小柴登司〈オンライン〉各ITアドバイザー）

①2011・12年度監査報告②ライオン誌日本語版事務所の運営③2011・12年度委員会からの引き継ぎ事項の確認④2012・13年度ライオン誌日本語版編集長方針⑤2012年9月号（10万400部発行）出来⑥10月号記事内容の確認⑦11月号以降台割（案）と主要記事予定⑧その他

第2回複合地区国際大会委員長連絡会議（9月7日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：桜井孝一、瀧澤嘉門、阿部清基、塚田雅二、石井博之、杉江健次、三谷智省、林榮一各委員、杉浦均議長）

I第51回OSEALフォーラム①フォーラム参加登録目標人数②各行事について③ジャパン・レセプション（2カ国合同開催）実施体制について④国際会長歓迎晩餐会　II第96回ハンブルク国際大会①国際協会発表最新情報②参加体制及び八複合地区共通代議員投票コース設定について③国際協会からのオフィシャルホテル配分について④インターナショナル・パレード

第1回複合地区YE委員長連絡会議（9月11日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：富田純明、後藤忍、丑田陸男、岡田繁雄、吉田宏、宇高昭造、鈴木正伸各委員、芹澤忠久委員長代理、杉浦均、河合悦子両議長）

①世話人の互選②複合地区YE委員長の手引き③本年度活動計画④海外通信窓口担当地区の確認と業務内容⑤各地区旅行代理店の確認と業務内容⑥前年度からの申し送り事項⑦2011・12年度YE委員長連絡会議収支会計報告⑧冬期交換⑨その他

新結成クラブ／名称変更

■新結成クラブ

宮崎県・西都西米良（甲斐浩志会長）▼6月26日認証▼スポンサー／宮崎オーシャン、宮崎

群馬県・前橋北（里方稔会長）▼9月6日認証▼スポンサー／前橋東

神奈川県・厚木マルベリー（北村利根会長）9月27日認証▼スポンサー／厚木さつき

■クラブ名称変更

東京都・国分寺→東京国分寺

訃報

■元国際役員

ライオン 中野喜代德（広島）
9月8日死去、84歳。00年度336・C地区ガバナー。

ライオン 村上昭（富山県・高岡）
9月13日死去、85歳。00年度334・D地区ガバナー。

国際大会開催予定

13年：ドイツ・ハンブルク／7月5日～9日
14年：カナダ・オンタリオ州トロント／7月4日～8日
15年：アメリカ・ハワイ州ホノルル／6月26日～30日
16年：日本・福岡／6月24日～28日
17年：アメリカ・イリノイ州シカゴ／6月30日～7月4日

GMT／GLT通信

ライオンズクラブの発展に重責を担う二つのチーム

国際協会公式ウェブサイト内にあるGMT、GLTのページでは、関連情報や資料を提供している

グローバル会員増強チーム（GMT）とグローバル指導力育成チーム（GLT）は、車の両輪のように連携して働いて、協会を前進させる。従来のMERLプログラムから組織の再構築がなされ、GMTとGLTの2チーム態勢となって、今年度は2年目となる。

GMTの役割は、会員数とクラブ数を増加させることと、クラブサクセスの推進。クラブや活動に対する会員の満足度を高めたり、弱体化しているクラブの再建を助けたりすることで、長期的な会員維持を実現させるのがクラブサクセスだ。昨年度、国際本部が実施したグローバル会員調査で、クラブに対する満足度が高いと回答した会員は、世界平均81％に対して日本は53％だった。更に、会員の満足度が高く、かつ会員数が増加・安定しているクラブの割合は、日本が8％で、世界の32％に比べて著しく低かった。こうした調査結果を見ても、クラブサクセスの実現は日本のクラブにとって喫緊の課題と言えそうだ。

もう一方のGLTの役割は、ライオンズのあらゆる役職レベルにおいてリーダーを見いだし、育成すること。更に、指導者が最大限にその力量を発揮出来るような研修・教育を行うことだ。特に日本において急務となっているのが、若手と女性リーダーの発掘と育成である。今年度、日本では3人の女性ガバナーが活躍しているが、世界の地区ガバナーに占める女性の割合は20％で、これを日本に当てはめれば35地区中7地区が女性ガバナーという計算になる。やはり世界と比べて少ない。

GMT／GLTは各会則地域、各エリアにリーダーを置いた国際チームが組織され、複合地区、地区にはコーディネーターが配されている。各地区においては、地区コーディネーターが地区ガバナー・チームや関連委員会と連携して活動している。

◆

このページでは今後、GMT／GLTの複合地区、地区における活動や、単一クラブにおける取り組み、成功事例などを紹介していく。

	GMT	GLT
●国際チーム		
副会則地域リーダー（日本担当）	山浦晟暉（元国際理事／東京新宿）	後藤隆一（元国際理事／千葉県・柏中央）
エリア・リーダー（東日本）	後藤忍（元協議会議長／北海道・函館グリーン）	杉本忠夫（元国際理事／北海道・札幌ライラック）
エリア・リーダー（西日本）	高田順一（国際理事／富山昭和）	不老安正（元国際理事／福岡県・太宰府）
●複合地区コーディネーター		
330複合地区	金子正之（元地区ガバナー／埼玉県・川越初雁）	渡辺和廣（元地区ガバナー／山梨県・甲府シティ）
331複合地区	茂尾実（元地区ガバナー／北海道・黒松内）	山口富雄（元地区ガバナー／北海道・札幌クラーク）
332複合地区	志賀重信（元地区ガバナー／宮城県・塩釜）	高橋義太郎（元協議会議長／岩手県・藤沢岩手）
333複合地区	佐藤和正（元地区ガバナー／新潟県・上越）	植村茂敏（元地区ガバナー／栃木県・小山東）
334複合地区	青木重臣（元地区ガバナー／愛知県・名古屋名城）	稲垣清明（元地区ガバナー／愛知県・西尾）
335複合地区	足達靖彦（元地区ガバナー／京都やわた）	森本克幸（元地区ガバナー／兵庫県・神戸ホスト）
336複合地区	山地章靖（元協議会議長／香川県・坂出白峰）	光貞正明（元地区ガバナー／山口県・岩国錦）
337複合地区	北島建則（元協議会議長／佐賀第一）	増田十郎（元協議会議長／宮崎オーシャン）

LCIF FILE

LCIF Development Update / Foundation Impact / SightFirst Update

LCIF Development Update

LCIF開発コーディネーターの役割

2008年3月の国際理事会で、LCIFの人道的活動を更に促進するためのLCIF開発計画が承認されました。この計画は視力ファーストⅡキャンペーン（CSFⅡ）の経験を生かそうと立案されたもので、これに伴い、従来の複合地区、地区のLCIF委員長の役職は廃止され、その代わりに開発コーディネーターが置かれ、LCIFの活動と資金獲得の促進に当たることになりました。

またLCIFの強化を図るために、2010年度からは新たにLCIFステアリング委員会が設置され、LCIF執行委員会に対して適切な助言、推薦を行うことになりました。委員は各会則地域から1人ずつに加え、会員数の上位2カ国、会員1人当たり献金額の上位2カ国からそれぞれ1人ずつ、アフリカから1人が任命され、前LCIF理事長がこれに加わります。これに従い、13人のメンバーが選ばれ、献金額第1位の日本からは栢森新治元国際理事が任命されました。

かつてはLCIF献金の4割近くが、日本のライオンズからという時期もありました。しかし現在、LCIFの献金額に占める日本の割合は2割を割っています。このような状況において、日本の開発コーディネーターの任務はLCIFに対する会員の理解を深め、各地区の献金額において毎年5%程度の増加を図ることにあります。

LCIF開発コーディネーターの任命は国際会長とLCIF理事長の連名でなされ、7月26日、愛知県名古屋市で開催された330～337複合地区LCIFセミナーの折に、ウィンクン・タムLCIF理事長からそれぞれに委嘱状が渡されました。

今年度から3年にわたる日本のLCIF開発の体制は左表の通りです。この11人の任期は3年ですが、地区開発コーディネーター（地区LCIF委員長が兼務のケースが多い）は日本の場合、1年任期で実施します。

日本全体
栢森新治（元国際理事、LCIFステアリング委員会日本代表／愛知県·名古屋ウエスト）
エリア・コーディネーター
東日本（330～333） **石井征二**（元協議会議長／東京八王子陵東）
西日本（334～337） **鈴木誓男**（元地区ガバナー／愛知県·豊田ルネッサンス）
複合地区コーディネーター
330：**桜井孝一**（元協議会議長／神奈川県·南足柄）
331：**秋庭一富**（元協議会議長／北海道·札幌エルム）
332：**須藤祐吉**（元地区ガバナー／福島県·矢吹）
333：**萩原光義**（元協議会議長／茨城県·土浦北）
334：**榎本舜治**（元地区ガバナー／愛知県·美浜）
335：**新宅元之**（元協議会議長／兵庫県·姫路中央）
336：**大羽義定**（元地区ガバナー／島根県·益田あけぼの）
337：**山本正廣**（元地区ガバナー／福岡県·大川）

◆

秋の国際理事会はアメリカ・インディアナ州のインディアナポリスで10月31日から開催されますが、この理事会に提出される日本から申請の交付金は次の通りです。

▼330・B地区＝身体障害者用車両の購入寄贈（一般援助交付金）
▼334・A地区＝タイ東北部における小学校の建設（一般援助交付金）
▼334・A地区＝カンボジアの学校にトイレの設置（国際援助交付金）
▼334・A地区＝知的障害者用トレーニング機器（一般援助交付金）
▼334・A地区＝ガイドドッグハウス（一般援助交付金）
▼334・E地区＝ラオスにおける小学校の建設（一般援助交付金）
▼334・E地区＝フィリピンにおける医療ミッション（国際援助交付金）
▼334・E地区＝フィリピンにおける歯科ミッション（国際援助交付金）
▼337・C地区＝眼科用医療機器の購入寄贈（一般援助交付金）

（田辺憲雄）

SightFirst Update

10周年を迎えた サイト・フォー・キッズ

サイト・フォー・キッズで視力検査を受け眼鏡を提供されたフィリピンのアリヤナ・キムラットはその後、学力が向上し、中学校の卒業式では卒業生代表として、閉会の辞を述べるまでに成長した。

「3年生の時、ペニンシュラ ライオンズクラブによる無料の眼科診察が実施されました。私はそこで無料で眼鏡を提供された幸運な生徒の一人です。以前は黒板の文字がはっきり見えませんでしたが、それでも私の視力は普通だと思っていました。私にとって眼鏡はとても役に立つものでした。皆様のおかげで、今ここにたどり着くことが出来ました」

アリヤナは閉会の辞でこう述べた。

世界保健機関によると、世界で約1900万人の児童が視力に障害を持っている。そのうち半数以上の児童は屈折障害（近視、遠視そして乱視）を患っている。これは視力検査で簡単に発見出来、眼鏡により矯正することが可能だ。が、治療を受けなければ、いずれ重度の視力障害や失明につながってしまう。アジアでは、視力障害の治療を受ける機会が少ないがために、約100万人の児童が失明している。

アジアにおいて児童期の視力障害や失明を減らすため、ライオンズクラブ国際財団（LCIF）とジョンソン・エンド・ジョンソン・ビジョンケアは2002年にサイト・フォー・キッズを生み出した。ライオンズや地元のパートナーの指導の下、眼科の専門家を採用し、十分な眼科サービスを受けられない地域の学校単位で、教師が視力検査やアイヘルスの教育を実施出来るよう訓練を行う。更に必要に応じて、生徒に地域の眼科医を紹介し、無料で視力検査や治療を受けてもらう。

「このプログラムが始まったことで、地域の人々により良いサービスを提供することが出来、とてもうれしく思います。ジョンソン・エンド・ジョンソンとのパートナーにより、私たちは地域の児童に200組以上の眼鏡を提供することが出来ました」

サイト・フォー・キッズのボランティアである検眼医レティ・アンズレス医師（パオロシティ・エメラルド ライオンズクラブ）は語る。

プログラムが発足してから10年、現在ではフィリピン、タイ、ベトナム、スリランカ、ネパール、インドで8件のサイト・フォー・キッズ・プログラムが成功している。そして10月の世界視力デーで、サイト・フォー・キッズ・プログラムは10周年を祝うことになる。

サイト・フォー・キッズを通して、今日までに1700万人以上の児童が視力検査を受けることが出来た。このうち50万人以上の児童が専門家による視力検査を受け、20万人の児童が無料で眼鏡を受け取った。

「サイト・フォー・キッズによって、児童の健康や視力の疾病に対応することに意義があると信じている献身的なパートナーが行動を起こすと、何を成し遂げられるかが分かりました。ライオンズは失明予防のリーダーであり、ジョンソン・エンド・ジョンソンはビジョンケアにおけるリーダーです。私たちは共に、このパートナーシップによって、児童の視力を守ることが出来るのです」

ウィンクン・タムLCIF理事長は話す。

更にジョンソン・エンド・ジョンソン・ビジョンケアは、サイト・フォー・キッズが必要な地域に引き続き200万ドルを提供することになった。この記念すべき1年にサイト・フォー・キッズのパートナーはこの業績を祝し、またプログラムの可能性、そしてこれからの新しい10年の活動と成功に焦点を当てている。

「もし今後10年も、最初の10年の勢いが続けば、私たちは本当にかつてない人数の子どもたちの視力検査を実施し、未矯正の屈折障害を発見し、治療費が賄えない子どもたちに適切な治療を提供することが出来ます。それは非常に喜ばしいことです」

と、ジョンソン・エンド・ジョンソン・ビジョンケアのアジア太平洋地域社長ティボルト・モンゴンは話す。

（アリス・ストライカー）

CLUB REPORT

クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿要領は54ページ参照

静岡駿府ライオンズクラブ

ハンディキャップテニス大会支援

9月9日。まだ暑さが残る中、静岡県営草薙庭球場に多くの人が集まっていた。彼らは、今日の第20回静岡ハンディキャップテニス大会の参加者だ。この大会は静岡ハンディキャップテニスクラブが主催、静岡駿府ライオンズクラブ（寺尾恵亘会長／72人）が協賛をしている。20年前に始まったこの大会との関わりは、第3回大会に故L山梨勝敏を中心としてL山田博久、L小竹俊夫が支援をしたのが始まり。クラブで関わり始めたのは15年前の第5回大会からだ。このアクティビティには毎回50人以上のメンバーとその家族20人ほどが参加。一丸となって大会を盛り上げている。また、ボール拾いなどで大会の運営を助けるのは静岡女子高等学校と静岡サレジオ高等学校のテニス部員たちだ。

大会が始まった頃はハンディキャップテニスの普及が進んでいなかった。そのため、強い選手の一方的な試合が多かったが、今では全体のレベルが上がり、どの試合も見応えがある。息が詰まるような白熱した時間が続くが、試合が終われば対戦相手同士、笑顔で握手をして健闘をたたえ合う。

試合が始まると静岡駿府ライオンズクラブのメンバーに休む暇はなくなる。大会本部脇に屋台を設営し、そこで焼きそばやカレー、かき氷、たい焼きといった食事を出すのだ。ハンディキャップテニス大会の関係者は全員無料で食べることが出来る。この日はチャリティー・テニスという別の大会が同時開催されていたが、その関係者も材料費程度の代金で買うことが出来る。そこで得た収益はNPO法人静岡県難病団体連絡協議会に送られることになっている。

メンバーは作業を分担して、食事を手際よく渡していく。機材は全て自前。鉄板に向かうメンバーの表情は真剣そのものだ。

食事の屋台の向かい側には万が一の場合に備えた医療テントが建てられて

いる。9月と言えど、まだ上旬。熱中症などが懸念される。そこでメンバーの医師、ライオン望月久司が経営するもちづき整形外科から看護師を派遣、待機させている。

その隣の本部テントの中にあるのはライオン長嶋捷治が心を込めて作ったガラス製のトロフィーだ。空き瓶を基に作られた、世界で一つだけのもの。参加者はこれを手にすることを目標として、しのぎを削っている。他にも大会パンフレットに広告の協賛をするなど、静岡駿府ライオンズクラブが資金面でも、運営面でも縁の下の力持ちとなって大会を支えている。

（取材／井原一樹　撮影／田中勝明）

愛知県・名古屋葵ライオンズクラブ

市民と共に源流の森づくりに取り組む

名古屋葵ライオンズクラブ（藤井義之会長／37人）は9月9日、市民約100人と共に長野県木曽郡王滝村の名古屋市民おんたけ休暇村で、植樹祭を開催した。名古屋市、名古屋市民休暇村公社、及び地元王滝村との共同主催として毎年実施しており、今年で8回目。クラブでは環境保全委員会（石原徳和委員長）を中心に、参加者の募集から苗木の提供、バスの手配など、主要アクティビティとして主体的に活動、これまでに延べ約1500人、累計で1千本近い苗を植樹している。

王滝村は江戸時代、名古屋藩に属していた。廃藩置県後も1876（明治9）年に長野県に編入されるまで、名古屋県に属するなど、歴史的にも名古屋との結びつきが深い。また、標高3067メートル、木曽節で知られる御嶽山は木曽川水系の源流域をなし、王滝村の御岳湖に貯水された水は、愛知県など中京圏の水がめとなっている。名古屋市民にとっては、源流の森づくりに参画する絶好の機会であり、植樹祭に参加する市民の意識も高い。

「2005年に結成40周年を迎え、名古屋市民の飲料水の源である御岳の森を整備しようと、記念事業として取り組み始めました。以来、おんたけ市民の森『葵の森』として、毎年植樹祭を開催し、山の保水力向上と保護を目的に、針葉樹を広葉樹に植え替えています。また、間伐材の有効活用のため、炭焼き窯を設置するなど、付帯事業にも力を入れてきました」

と、藤井会長。一方、受け入れ側の王滝村・瀬戸普村長は、

「毎年おいでになっている方もお見受けしますが、広葉樹は育つまでに長い年月がかかります。名古屋葵ライオンズクラブの皆さんには30年、40年と末永く植樹祭を続けて頂けたら何よりです」

と語り、山村と都市との交流を通じ、上流部と下流部が力を合わせて山を守っていく体制作りに期待を寄せていた。

（取材／鈴木秀晃）

愛知県・一宮北ライオンズクラブ

会員数13人でも元気に清掃奉仕

イラスト／篠田和夫

昨年30周年の節目を迎えた一宮北ライオンズクラブのメンバーは現在13人。かつては89人という華やかな時期もあったが、高齢化や経済不況により減少した。しかし、現在は所属する13人全てが役員であり、委員長だ。例会出席100％も珍しくない。気心の知れた者同士、奉仕活動も楽しく出来る。本年度の会長ライオン戸田佳孝は40歳、幹事のライオン神谷敬行は38歳と若いメンバーもがんばっている。最年長は77歳のライオン坪内元治。ライオン坪内は幹事のスポンサーでもあり、元気に奉仕活動の先達をしている。

そんな当クラブは8月15日、その前日に行われた濃尾大花火大会の跡地清掃を行った。この花火大会は平成3年の一宮市市制70周年を記念し、北方町木曽川河川敷で始まったものである。当初から当クラブは大会の翌朝に市民ボランティアの方々と共に清掃活動に参加していた。平成18年に一宮市、尾西市、木曽川町の2市1町合併があり、花火大会の会場も北部から西部木曽川河川敷へ移動、現在は岐阜県羽島市との共同開催となり、「濃尾大花火」として親しまれている。当日は5千発の花火が打ち上げられ、観覧者は25万人を超える人気行事だ。

当クラブの清掃活動は翌朝6時に始まる。ゴミは広範囲に飛散し、まさに「つわものどもが夢の跡」だ。だが、高校生や市民ボランティアの参加、尾西ライオンズクラブの参加もあり、手際よくこなすことが出来た。メンバーの着る黄色のジャンパーが青空に映え、早朝の爽やかな空気に触れながらのアクティビティは気持ちの良いものだった。

メンバーも少なく、制約された予算の中で大きな事業は行えないが、「薬物乱用防止教室」「献血活動」と共に地域に密着した活動をこれからも行っていきたい。（PR委員長／松岡孝司）

宮城県・仙台青葉ライオンズクラブ

仮設住宅復興支援「みんなの夏祭り」開催！

仙台青葉ライオンズクラブ（岩本政郁会長／34人）は7月29日、宮城県名取市美田園第一仮設住宅で復興支援「みんなの夏祭り」を開催した。真夏日だったにもかかわらず、名取市沿岸部の閖上で被災した方200人が参加してくれた。

仙台青葉ライオンズクラブは焼肉を中心に、焼きそば、おにぎり、たこ焼き、ビールなどを提供して会場を盛り上げた。前年度（遊佐美由紀前会長）から継続して実施しており、支援アクティビティを通して顔見知りになった方から「また来てくれたんだね」と声を掛けて頂く場面もあった。

入会間もなく、被災者でもあるライオン佐藤宏（クラブ副幹事）にとっては、初めての労力アクティビティだった。しかし、自分の会社から仙台牛45キロをドネーション、奥様と一緒に焼き場を担当する活躍ぶり。また仙台でジャズ教室を営む演奏家安田智彦氏もボランティアで参加して頂き、快晴の青空の下、サックスで耳を楽しませてくれた。更に東京ワンハンドレッドライオンズクラブ（伊賀保夫会長）からも5人が参加され、児童図書50冊と児童遊具を仮設住宅に贈呈された。

この日、特に盛り上がりを見せたのが、ライオン有志による合唱サークル「金謡会」のカラオケ大会。ラストの「青い山脈」は、今年の4月に吉永小百合さんを当クラブが招請し、仮設住宅の皆さんを招待したこともあり、大いに盛り上がった。今回は地域を超えて多くの皆さんにご協力を頂いたおかげで、一人ひとりが主役の「みんなの夏祭り」となった。

被災者も支援者も楽しむことが、今後の息の長い復興支援には大切なのではないか、と深く考えさせられた一日だった。（幹事／平嶋敬義）

広島フェニックス ライオンズクラブ

薬物乱用のない平和な世界を

平和都市・広島から「薬物乱用のない平和な世界をめざして！」のメッセージを発信しようと、9月8日、広島市の広島国際会議場において、広島フェニックス ライオンズクラブ（柏村武昭会長／41人）の30周年記念事業「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』インターナショナル・フォーラム」が開かれた。

広島フェニックス ライオンズクラブは09年度に全国で初めて大学生の薬物乱用防止教育認定講師の育成を始め、小学校での乱用防止教室に派遣している。今フォーラムには大学生認定講師や市民、会員ら320人が参加した。

フォーラムではまず、前国際連合麻薬・犯罪事務局長特別顧問で、30年にわたり麻薬などの国際規制や薬物犯罪防止に尽力している藤野彰氏と、インドネシアで青少年を薬物乱用から守るための教育や福祉に取り組むYCAB財団代表のヴェロニカ・コロンダム氏が講演。藤野氏は、薬物の供給地となっているアフガニスタンや南米の実態などを報告し、「薬物の需要を減らすことは、供給地で困難にさらされている人々を助けることにもつながる。何よりもまず『始めないこと』が大事」と、乱用防止教育の重要性を説いた。

パネル・ディスカッションでは、講演者2人に、薬物汚染の最前線で取材を続けるNHK報道局記者の野本勝氏と、広島国際学院大学留学生で認定講師として活動する王偉静氏が加わり、脱法ハーブなど若者の間に広がる薬物汚染について意見が交わされた。野本氏取材の番組や、コーディネーターを務めたフリー・ジャーナリストのライオン藤野能子による地元大学生へのインタビュー映像で、身近に迫る薬物汚染の実態が報告され、参加者は真剣な表情で聞き入った。会場の大学生からの「薬物は危険だと知りながら手を出している人もいる。そんな若者に対してどうしたら良いか」との問いには野本氏が、「認識している危険の度合いと実態とがかけ離れている。インターネットなどで誤った情報が流されており、正しい理解を広めることが大切。また、友人や家族など周囲の人がしっかり向き合って、人生にはもっと楽しいことがあると伝えてほしい」と述べた。

最後には、柏村会長が薬物乱用防止ひろしま宣言を読み上げ、「ダメ。ゼッタイ。」の合言葉で締めくくった。

（取材／河村智子）

広島県内では尾道ライオンズクラブと福山北ライオンズクラブも大学生認定講師を育成している。フォーラム修了後の交流会では、子どもたちに伝える工夫など情報を交換した

神奈川県・横浜ライオンズクラブ
津波で消失した校歌音源を提供

7月27日、横浜ライオンズクラブ（山口喜久雄会長／25人）はフェリス女学院大学音楽学部の皆さんと共に岩手県大船渡市にある赤崎中学校を訪れ、ピアノと赤崎中学校の校歌を録音したCD、楽譜を贈呈した。

赤崎中学校は東日本大震災により、校舎が津波の被害を受けた。幸い、生徒と先生は近くの山に逃げて無事だったが、彼らはそこから、自分たちの大切なものがたくさん流されていく様を目の当たりにしたのだった。ピアノや、校歌の楽譜、音源も津波と共に流されていった。

横浜ライオンズクラブのメンバーがそれを聞きつけたところから、このアクティビティはスタートした。これに快く賛同、失った校歌の楽譜を作り直し、音源を録音してくれたのがフェリス女学院大学音楽学部の皆さん。27日も前夜に横浜でコンサートがあったにもかかわらず、早朝から我々と共に赤崎中学校の仮設校舎へ向かってくれた。

当日はフェリス女学院大学の皆さんが声楽・ピアノ・バイオリン・チェロによるコンサートを披露。最後に立神粧子学部長のピアノと共に「ふるさと」を歌った。それを聴いて涙ぐむ子どももいた。

破壊されたのは建物だけではない。私たちは彼らの心の傷を少しでも埋められただろうか。将来、この中から何人かが音楽を学び、彼女たちのように人々に希望や感動を与えるような人になってくれたらうれしいと思った。

このアクティビティは横浜ライオンズクラブだけではとても出来なかった。大船渡五葉ライオンズクラブ、フェリス女学院大学音楽学部、甲府ライオンズクラブなどの協力によって遂行出来たと、深く感謝している。

我々の出来ることはとても小さいが、皆さんが協力してくれたおかげで出来ることが少し大きくなった。

（山岸知幸）

北海道・上磯ライオンズクラブ
子ども会対抗わんぱく相撲

7月14日、上磯ライオンズクラブ（金澤賢一会長／35人）は戦没者慰霊祭協賛子ども会対抗わんぱく相撲大会を開催した。この大会は相撲を通じて子どもたちの心身を鍛錬すると共に、子ども会の交流と親睦を目的として37年前に旧上磯町で始まり、現在に至っている。上磯ライオンズクラブは結成以来この行事に関わっており、主要アクティビティに位置付けている。

かつては100人近い子どもたちが参加していたが、近年は少子化の影響などにより、ピーク時の半分以下まで減少、今年も35人の参加者にとどまった。しかし、参加者が40人前後となった10年程前から女子が出場するようになり、大会の雰囲気が変わってきた。当初は1年生か2年生の女子が1人出場する程度だったが、2、3年前からその数が増え始め、今年は全学年に女子が参加、個人戦では小学校5年生の女の子が見事優勝した。

相撲体型の高学年の子に果敢に挑む細い低学年の子や、意表をつく技を披露する子、土俵際で逆転してガッツポーズの子。女子相手にどこに手を持って行けばいいか分からずに負けてしまう子もいた。そんな土俵の中で繰り広げられる子どもたちの取り組みに一喜一憂する親の姿もまた印象的である。観客席では女子に負けた男の子を親が叱咤激励する場面もあり、参加者が減少していても大いに盛り上がった。女子の出場により大会が華やぎ、取り組みごとに笑いあり、涙ありで拍手喝采の連続だ。参加者が少なくなった分、観客と力士たちの一体感が生まれ、大声援が鳴り止まない相撲大会となっている。

（PR委員長／宮崎高志）

香川県・東かがわライオンズクラブ

新築された中学校体育館に緞帳を寄贈

1964年2月13日に日本で717番目のクラブとして結成された東かがわライオンズクラブ（田中貞男会長／41人）は来年、結成50周年を迎える。そこで、昨年から50周年準備委員会を組織、会員の要望や準備委員からの事業案を持ち寄り、記念事業内容を検討した。

準備委員会では記念事業の候補を①社会奉仕に貢献出来るか②地域に記念として後世に残せる事業か③未来を担う青少年の健全育成に資する事業か④記念事業予算の範囲で実施出来るか等の基準を設けて検討、八つあった事業候補を四つに絞り込んだ。

今年7月初めに準備委員会は実行委員会に姿を変え、実行委員長とその他9人の準備委員が総務委員会、記念事業委員会、祝宴委員会の3委員会を組織した。クラブのメンバーは全員が委員として加わり、一致団結の下、記念事業を進めていくこととなった。

50周年記念事業の最初に行う事業として、市立大川中学校新体育館に緞帳を寄贈した。9月8日、そのお披露目が大川中学全生徒や保護者を含めた約500人の前で行われた。式典には、メンバー8人がライオン帽を着用して出席した。完成式典の冒頭には東かがわ市の藤井秀城市長から感謝状の贈呈があった。市長のあいさつの中で、東かがわライオンズクラブの市内での社会奉仕活動の数々を紹介頂くと共に、その奉仕に対して感謝の言葉を頂いた。未来ある中学生の皆さんに、この緞帳を末永く使って頂ければ幸いだ。

（50周年副実行委員長／六車文秀）

福島県・郡山北ライオンズクラブ

10回目のナザレ園訪問

6月23日、郡山北ライオンズクラブ（中村行宏会長／19人）のメンバー9人は国際大会が開かれる釜山に到着した。翌24日は釜山国際大会の参加、そして韓国滞在3日目である6月25日は訪韓第2の目的である慶州ナザレ園慰問を行った。ナザレ園は韓国人男性と結婚し、戦後になって朝鮮半島に取り残された日本人女性のための施設である。当時、韓国での強い反日感情により日本人妻が家族から追い出されることが多かった。日本への帰国も難しかった彼女たちを受け入れたのが金龍成氏。彼はナザレ園を開設し、日本人妻を収容した。収容されたうち、150人近くが日本に永住帰国出来た。

我がクラブとナザレ園の関係は1986年に韓国で開かれたOSEALフォーラムまでさかのぼる。その訪韓の際、日本のテレビでナザレ園が紹介されたこともあって訪れたのだ。それから93年までほぼ毎年訪れるなど、クラブで計9回訪問した。今回は2001年以来、久々の訪問だった。東日本大震災の際、ナザレ園から「韓国のおばあちゃんも心配しております」と義援金が送られたこともあり、その謝辞を申し上げると共に、10万円のドネーションと食品や消耗品を贈呈した。更に、L山田浩の指揮、L曳地比呂恵のフルートに乗せて童謡「ふるさと」「花」「赤とんぼ」を合唱した。そして、入所者一人ひとりと握手を交わし、惜しむ涙をこらえながらナザレ園を後にした。

（前PR委員長／佐藤攻）

神奈川県・茅ケ崎オーシャン ライオンズクラブ

イルカと遊ぶ体験教室

茅ケ崎オーシャン ライオンズクラブ（花田慎会長／24人）は6月30日、7月1日の2日間、伊東市伊東港内で「イルカと遊ぶ体験教室」を開催した。

これは知的ハンディキャップのある子どもたちを対象に1泊2日で行うアクティビティだ。イルカとの触れ合いを通じて自然の海を体験してもらうことを目的に、昨年に続いて2回目となる。今回は児童12人、保護者、メンバーの総勢44人が参加した。

イルカとの触れ合いは、伊東港内で「ドルフィンファンタジー」として開催されている人気のサービスである。通常の土日は一般客でにぎわっているが、当日は貸し切りとさせて頂き、現地スタッフに万全の体制でサポートして頂いている。

1日目はイルカとお話をする。インストラクターの方々から説明を受けた後、いけすに移動し、餌をあげたり、握手したりと、イルカの声を聞きながらコミュニケーションを深めるのだ。イルカの力はすごい。最初は慣れないイルカや水に怖がっていた子どもたちも、最後には全員笑顔になっていた。そして、初日の体験教室はイルカのパフォーマンスで終わる。その後は、保護者の方々も含め全員でバーベキュー懇親会を行った。参加者が海辺に集まり、楽しい交流会となった。

2日目は少しハードな内容。子どもたちはウエットスーツに着替えてイルカと一緒にシュノーケリングとスイミングをするのだ。イルカに誘われてだろうか、水が苦手で嫌がっていた子もいつしか一緒に泳ぎだす。背びれにつかまって泳ぐ子どももおり、とても楽しそうだ。そんな光景を見守る保護者、クラブ・メンバーに笑顔の輪が広がっていく。閉会式では子どもたちに記念品をプレゼント。2日間の「イルカと遊ぶ体験教室」は無事に終了した。

当クラブは結成6年目の若いクラブであり、多くの方々のご支援を受けつつアクティビティ重視の活動を行っている。今年の会長テーマ「力を合わせて楽しく奉仕」の通り、汗と知恵をしぼってこれからも楽しく地域貢献するアクティビティを目指していく。

（福祉委員長／梶野孝一）

兵庫県・柏原ライオンズクラブ

とっておきの一句

7月13日、柏原ライオンズクラブ（29人）は柏原町内にある帯広小学校（3クラス）、新井小学校（1クラス）の6年生を対象に俳句教室を実施した。

柏原町出身の江戸時代の俳人、田ステ女は「雪の朝二の字二の字の下駄のあと」という句を6歳の時に詠み、その後も活躍した。この俳句教室は彼女にちなんで開催しており、青少年健全育成活動の一環として今回で18回目を数える。

当日は、京都教育大学の植山俊宏教授がクラスごとに特別授業を実施。植山教授は季語を一つだけ入れることや、大げさな表現を織り交ぜること、リズム感を大事にすることなどを教え、いい句が作れるようアドバイスしていた。それを聞いた子どもたちは早速指を折り、頭をひねりながら俳句制作に取りかかる。そして時折、植山教授やスタッフから指導を受けて、とっておきの一句を完成させていった。

植山教授が出来上がった句を講評しながら紹介し、トーナメント形式の「句相撲」で優秀な句が選ばれていった。

当ライオンズクラブではクラスごとに優秀な句を表彰した。表彰された足立莱緒さんは「俳句は公募によく出しているので、次に出す時は今回の教室で学んだことを生かしたい」と語ってくれた。

優秀な句として選ばれたのは次の句。

足立莱緒さん「輪になって線香花火妹と」

清水麻結さん「ひまわりのまぶしい黄色で目がさめる」

足立若菜さん「空の下家族一家で麦わら帽子」

前田佳澄さん「ガリガリととうもろこしを大口で」

（会長／能勢将和）

岐阜県・大垣東ライオンズクラブ

三城の東屋の完成

大垣東ライオンズクラブ（79人）は今期、50周年の大きな節目を迎える。その記念事業として三城公園に「三城の東屋」を完成させた。この三城公園と大垣東ライオンズクラブとの関わりは深い。40年前の10周年記念事業で青空時計塔を寄贈すると共に記念植樹を行ったことから始まり、15周年、20周年と記念事業を行ってきた。35周年の記念事業では三城球場の南角地に「未来パーク」を整備し、10年かけて三城公園周辺に約230本の桜を植樹した。45周年には3本の大きなシダレ桜を寄贈して、真ん中の桜を「未来桜」と名付け、桜事業を締めくくった。毎年桜のシーズンには多くの皆様に楽しんで頂けるものとなり、うれしく思っている。

そして50周年がこの「三城の東屋」だ。大垣市は全国でも有数の自噴帯に位置し、豊富な地下水の恵みにより水の都と呼ばれている。以前は各家庭で井戸を持ち、地下水を活用していた。今でも良質な地下水が自噴している井戸が数多く見られる。

三城公園の中にも自噴水の井戸があるが利用者は少なく、この度はその周辺を整備し、東屋を建てることとした。2012年は「ぎふ清流国体」が開催され、三城公園の近くにその競技会場となる総合体育館があることも計画実行を後押しした。大垣市の名水を全国の選手にPR出来れば、という狙いだ。「未来の泉」と名付けられた東屋の建設は前年度の49期から実行に入った。完成した井戸は五角形で、福島県産の杉を使用、くみやすいように5カ所から水が流れ出るものとなっている。これは大垣市の市章と50周年の5からデザインしたものだ。この東屋の完成によって地域の活性化や、大垣のPRに大いに役立つようにと願っている。

（会長／清水保雄）

新潟県・三条イースト ライオンズクラブ

昭栄大橋清掃作業と花火例会

8月4日、三条イースト ライオンズクラブ（三上行雄会長／30人）のメンバーとその家族は旧市街地にある昭栄大橋の草取りと清掃を行った。その日は第8回三条夏まつりの中日である。昭栄大橋は約25年前に建設された三条市の顔とも言うべき橋だ。

当日は晴天に恵まれ、メンバーとその家族合わせて約20人が参加した。簡単な例会と作業の説明の後、草取りとゴミ拾いを開始。普段は気にならない雑草やたばこの吸い殻も、作業をするとその量に驚く。1時間半にわたって炎天下で作業を進めたメンバーと家族たちだったが、見違えるほど奇麗になった昭栄大橋を見てすがすがしい達成感を得ることが出来た。

草取り後は夕方6時にライオン野水博己の経営する飲食店春秋まるいの店舗屋上で花火を見ながら懇親会を行った。料理はライオン野水の配慮により、三条まつりを意識した屋台メニュー。これには参加した子どもたちも大喜びで、花火が打ち上がるまでおいしい料理に舌鼓を打っていた。7時30分に始まった花火も、作業後の疲れた体に染み入る冷たいビールも、アクティビティの達成感によりいつもと違って感じられた。

昨年はクラブを結成したばかりで何も分からぬまま、過ぎてしまった感がある。しかし、今回は昨年夏のチャーター・ナイト記念アクティビティ「東日本大震災福島復興祈願納涼フェスティバル」以来、初めて三条市民にアピール出来るものとなった。メンバーと家族の交流にもつながるため、今後も継続的に行うつもりだ。（PR委員会）

栃木県・宇都宮マロニエ ライオンズクラブ

物故ライオンの慰霊に感動

去る7月1日に宇都宮マロニエ ライオンズクラブ（三尾谷文子会長／39人）は前期役員に対する慰労会として「ごくろうさま例会」を行った。場所は奥日光湯元温泉の「倶楽部山の宿」だ。

日光を選んだのは、日光ライオンズクラブのライオン川島慎太郎から全国の物故ライオンを慰霊してくれている寺院があると聞いたからだ。例会は夜の予定だったので、1日の午前はその寺院、日光山輪王寺常行堂を案内して頂いた。日光山輪王寺常行堂は848年に慈覚大師が比叡山に擬して建立し、常行三昧の法を授けたとされている。世界遺産の日光に位置する由緒正しいお堂に物故ライオンが供養されているとは知らなかった。常行堂本堂内部には立派なライオンズクラブ位牌が安置されており、メンバー一同、心を込めて供養させて頂いた。本尊の阿弥陀如来は孔雀座に座し、法利因語の四菩薩を周囲に配している。このような形のものでは日本最古であり、貴重な像だ。その他にも東京スカイツリーの参考にされたという五重塔の心柱設計を見学したり、日光ライオンズクラブのライオン足立廣文による丁寧な説明を聞いたりしながら、日光での時間を楽しんだ。こうした他クラブとの交流は、自らの見聞を広められるのに加え、離れた場所の人とも絆を強め、ライオンズライフを楽しむことや、生きる喜びにつながっていくと思う。（PR・情報委員長／江連真代）

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領→54ページ

国際第1副会長の旗

中野 了（東京渋谷）

56年も前の話です。

ニューヨークの5月のある日、ＹＭＣＡスローン・ハウスに滞在していた私は、地下にあるカフェテリアに入りました。するとその人、後に国際第3副会長になられたライオン小川清司が、度の強い眼鏡の奥で微笑みながら私を迎え入れてくれました。私は、ＹＭＣＡの関係で5年ほど前からの知己で親しくさせていただいていた、この先輩が大好きでした。

当時、世田谷にあった砧ゴルフ場で早朝ゴルフをした仲間でもあった二人が、久しぶりに彼の地で会ったものですから、滞在中はニューヨークの地下鉄の終点にあるパブリック・コースで、1カ月の間に9回も早朝ゴルフを楽しみました。

ライオン小川は視聴覚教育、私は化粧品と広告の勉強のためにニューヨークに滞在していた頃の思い出です。

ライオン小川はすばらしく頭の回転が速く、心優しい反面、豪快なものも持ち合わせていました。後輩の私が言うのも恐縮ですが、オッチョコチョイなところもあって、本当に魅力のあるすてきな方でした。いろいろな交わりを経て、51年前の1961年に私はライオン小川のスポンサーで東京渋谷ライオンズクラブに入会させていただきました。

そして80年にライオン小川が330‐A地区ガバナーになり、私はキャビネット幹事を務めることになりました。その頃から折に触れ私はライオン小川に、

「ガバナー職も大切だけど、国際理事、国際会長になるためのステップだ」

と申しあげていました。

私たちの夢がかなって、ライオン小川は国際理事を経て87年に国際第3副会長に就任。文字通りの東奔西走、89年6月のマイアミ国際大会で第1副会長になりました。が、同年9月22日、残念ながら私たちの祈りもむなしく、ロサンゼルスで急逝されたのであります。

81年就任の村上薫国際会長に次ぐ日本からの国際会長を目前にして倒れられたのですから、ご本人の無念さはもちろんだと思います。しかしそればかりでなく、日本ラ

イラスト／小川和政

イオンズの希望の灯も遠くに消えていってしまったのです。

アメリカ・オークブルックにある国際本部の日本庭園には、その入り口の壁に、ライオン小川のそれまでの功績をたたえ感謝を捧げる記念のレリーフが設置されました。ご存じの方もいらっしゃると思います。更に国際協会は、本来はホスト・クラブの持ち回りであるはずの国際第1副会長旗を、私たち東京渋谷ライオンズクラブに贈ってくださったのです。

クラブ例会の時に私は姿勢を正しくして、その旗に目礼をしています。

さてこの度、「ライオンズには命を懸ける価値がある」と常に言っておられ、全てを捧げ燃え尽くしたライオン小川のご遺志を継いでくださるであろう待望のライオンが出現したことに、私は心から感謝と声援を送りたいと思っています。ライオン小川のために、そして日本ライオンズのためにも、ライオン山田實紘が国際第2副会長旗を必ず自クラブ、岐阜県・美濃加茂ライオンズクラブに飾る日が来ることを、心からお祈りせずにはいられない毎日なのです。

ＹＥ生と過ごした エキサイティングな日々

大塚 隆寿（埼玉県・大宮中央）

猛暑と言われた今年の夏。平成22年にトルコのＹＥ生のホスト・ファミリーとなったのに続いて、今年もまたホストを務めることになりました。

昭和13年生まれの私はＹＥ生を連れて歩くのは少々しんどくなってきております。2人の息子はとっくに独立してしまって夫婦2人の生活です。そのままになっている子ども部屋を使ってもらえるので、ＹＥ生には快適な環境のようです。

夫婦ともども英会話を数年間勉強していまして、大概の会話はなんとか通じるようになったつもりです。

今年のＹＥ生、ジョッシュはアメリカ・カリフォルニアから来ました。

前回受け入れたトルコの学生はイスラム教徒だったので、食べ物の戒律がとても厳しくて、豚肉は駄目から始まって、ローストビーフも、すし等生ものも絶対に駄目でした。

一方、ジョッシュは食卓に出す物は何でも食べます。普通の茶碗では小さいので小丼で出すのですが、白いご飯は大好きらしく、上手に箸を使ってお代わりして食べます。あまり小気味よく食べるので、家内もつられて食べて太ったらどうしようと心配していました。

日本のことも良く勉強していて、江戸時代のこと、天皇陛下のことなど、よく知っていまして質問してきます。

はとバスにも乗りました。さまざまな国から来た人たちが乗り合わせ、ツアー・コンダクターが英語で説明をしてくれて、他の国の人たちとも親睦を深めることが出来たようです。

ホーム・クラブの例会に出席した時には、自己紹介を日本語でやろうと考え、紹介文をローマ字で書き練習してもらいました。3日くらい練習して例会で読み上げたところ、今年のＹＥ生は日本語がしゃべれるな、と思われる方もいたほどです。

駅前にあるビックカメラやデパートに1人で行きたいと言い出したこともあります。迷子になったら大変、私の責任だとは思いましたが、家までの地図、電話番号を持たせて行かせました。生き生きとして無事帰ってきたので一安心。私たちも海外へ出かけた時、自由行動は楽しいものです。

今回も、キャビネットのＹＥ副委員長に大変お世話になりました。
ライオンズクラブのＹＥ事業はずっと続くと思われます。
ホスト・ファミリーになってみると、毎日が楽しく興奮させられます。メンバーの皆様にも、ぜひこの楽しみ、そして苦労を体験されることをお勧め致します。

角栄が居て、日本が元気だったあの頃

阿戸 健次（埼玉県・大宮見沼）

現在、日本はデフレ不況の中、国民の60%以上が増税反対にもかかわらず、国会では消費税増税案が自公民3党合意により可決された。ちまたでは「こんな時、角栄がいたらナー」という声が聞こえてくる。
１９７２（昭和47）年、長期政権を誇った佐藤栄作内閣が退陣、田中角栄が首相となった。
国民の62%という高支持率の下、今太閤、庶民宰相ともてはやされ、大いに期待された。首相就任の1カ月前、通産大臣時代に上梓された『日本列島改造論』は90万部を超えるベストセラーとなった。角栄は決断と実行の政治を訴え就任、私的諮問機関を立ち上げ政策の実現に着手した。
改造論とは田中自身が序文で言うように、明治元年から１００年、日本は東京一極集中が進んだ歴史だったと指摘。その流れを変えるために「国土維新」を掲げ都市と地方を結ぶ鉄道網（新幹線）、高速道路網を整備、地方に工業を再配置し、地方経済の活性化を目指す、画期的な構想であった。が、その一方、開発候補地が投機対象となる「列島改造ブーム」で地価が急上昇、インフレ進行が国会で問題となった。
71年、ニクソン米大統領が金とドルの交換停止を発表（ニクソン・ショック）。固定相場制から変動相場制に移り、急激な円高となったため自動車等の対米輸出が抑えられた。国内では内需喚起のために金融緩和政策が採られており、過剰流動性が高まり地価や物価が急上昇中のところ、列島改造論で更にインフレが加速した。
北海道から沖縄の島々に至るまで、全国津々浦々の物件が投資対象となって買いあさられ、国民は一億総不動産屋となり、物件を求めて東奔西走した。特に地価の安い軽井沢や那須の別荘地に投資家が殺到。別荘分譲業者は巨額の利益を稼ぎ出し、プロ野球球団を買収する業者も現れ、当時話題となった。
私も千載一遇のチャンス到来と考え、時代に乗り遅れまいと物件情報の収集にアンテナを張っていたところ、知人の紹介で福島県いわき市の常磐ハワイアンセンター（現スパリゾート・ハワイアンズ）に隣接するまとまった土地が地上げ中という情報が入った。すぐ現地へ飛んで物見、地権者と交渉の末、売買契約を締結した。市街化調整区域のため約6万坪にまとめて山林を買収、地権者の村民から大歓迎された。
近隣の土地は大手商社を始め株式市場で名の知れた中堅建設会社等が地上げ買収中で、近くの湯本温泉の旅館は毎晩、宴会でにぎわっており、私もよく利用させて頂いた一人である。周辺は後に常磐高速道路が開通。ゴルフ場建設ラッシュとなった。
常磐ハワイアンセンターは石炭から石油へのエネルギー政策転換により常磐炭鉱が

獅子吼

廃鉱となった昭和40年頃、湧き出す温泉を利用し常夏のハワイをイメージして作られた温泉レジャー施設である。近隣の農村から若い女の子をフラガールとして集めフラダンスのショーを見せる、当時としてはなかなかのアイデアで大ブレークした。

日本が高度経済成長期に入り、国民はレジャーやスポーツを楽しむ余裕が生まれていた。日本中がボウリングブームに沸いていた。国民所得も向上し、将来に夢と希望を描くことが出来た、古き良き時代を思い出しながら筆を執った次第である。

ライオンズの発展には法人化が必要である

斎藤 幸一（山形霞城）

『ライオン』誌7月号で、東京桜門ライオンズクラブライオン池田和司の法人化問題についてのご意見を拝見した。

誠に時宜を得た有意義な提言であり、感銘を受けたところだ。古い会員なら一度は、法人化問題を考えたことがあると思うが、国際協会が慎重な態度である限り、実現は困難だと考えられるし、公益法人となるとなおさらである。330-A地区では、法人化検討委員会が設立された由、その先見性に敬意を表したいと思う。

今回の池田論説で、私は思い出したことがある。

1977年、332-B地区（当時東北6県はA・Bの2地区）ガバナーに就任したライオン山口隆義（山形ライオンズクラブ）のことだ。

山形市の中心部に自宅があり、子どもに恵まれなかった彼は、それ程親密でない親戚に遺産を残すよりは、ライオンズクラブに活用してもらう方法は無いものかと、随分研究したらしい。金融資産は妻に残し、不動産全部をライオンズクラブに遺贈するとの構想であった。しかし、ライオンズクラブは任意団体（法的には人格なき社団）であり、彼の希望通り不動産を遺贈することは不可能であった。

彼は平成18年に82歳で逝去しているが、もし法人化が達成されていれば、彼と同じように遺産をライオンズクラブのためにと考える人は、全国でも少なくないと思う。特に最近は、相続税の増税が話題になっているご時世である。

ここでライオン山口について少々説明すると、会長経験の無かった彼を副地区ガバナーにするため、理事会は彼をキャビネット幹事に指名し、彼は副地区ガバナーを経て、ガバナーに就任した。

彼の職業は、現在では珍しくなった浄化槽会社の経営であった。下水道が普及するまでは、水洗トイレには浄化槽が必要であり、その頃は繁忙を極めたらしい。社長室にこもって現場へ出なかった彼は、『ライオンズ必携』の勉強に熱中し、当時120ページ程度だった必携を丸暗記した。

これが後に3県（宮城、福島、山形）全クラブの公式訪問の時に、威力を発揮したらしい。彼の必携理解力は、並の会員の到底及ばない水準にあることが複合地区全般に広まり、他地区のガバナー候補者までが指導を受けに山口詣でをするようになったと、伝説になっている。

半生をライオンズクラブに捧げた感のある彼の希望通り、全不動産がライオンズクラブの所有となり、山形市内にライオンズ会館が開設されたら……考えただけでも元気の出る話だ。その結果、ライオンズ活動は大きく発展したと考えて間違いないと思う。

日本全国にライオンズ会館が続々と出現したら、日本ライオンズは世界をリードす

る存在になるような気がするのだが、現在のところはまだ、夢のまた夢のようなものだ。

いつか夢が現実のものになれば、これほどうれしいことは無いなどと考えている90歳である。

ライオンズの三役となって

森田　道和（埼玉県・熊谷）

2008年9月5日に熊谷ライオンズクラブに入会致しました。年齢は老人の域に達しておりますが、ライオンとしては、まだ満4歳になったばかりの幼児の会員です。今年はクラブ三役の会計を引き受けさせて頂きました。

ところで330・C地区は、中村泰久ガバナーのテーマ「Action＝行動」、そして「明日への希望・明日への奉仕」をアクティビティ・スローガンに掲げ、活動していくことになります。新年度になりましたが、当クラブでは通年行事は良いとしても、年度の目玉行事が未決定の状態です。

日本ライオンズ結成以来60年間に、国内外に果たした社会奉仕額は、4千億円に近いと言われておりますが、その実績に対しての社会的認知度や評価が深まっていない状況です。その打開策として、今一度、初心の基本理念を考えてみたらどうでしょう。『ライオン』誌7月号において、「法人化を考える」という記事が掲載されておりました。しかし個人的には反対です。まず私たちはライオンズ・メンバーとして、ロータリークラブやNPOとの違いをよく理解し、特色ある活動を展開すべきではないでしょうか?

ライオンズは1917年、シカゴの実業家メルビン・ジョーンズ氏が、アメリカ国内のビジネス・クラブに、仕事の問題を超えて地域や世界をより良くするために貢献していこうと呼び掛けて誕生しました。基本理念は一足先に創設されていたロータリークラブとほとんど変わりません。しかし、職域や個人での活動を根幹として捉えているロータリークラブ。一方ライオンズは、チームワークを重んじ事業展開を図ることに特徴があります。この違いは大変大きいと思います。個人活動ではいくら優秀な人が多くても限界があります。反して平均的な個人でも必ず得意な分野があり、その人たちでチームワークを組むことで、全体のレベルは必ず上がるものと考えます。

ところでNPOはどうでしょう。一般企業は株主や社員に対して利益分配を行います。しかしNPOは関係者への利益分配は行わず、次の事業展開のために資金を使います。そのため「非営利」と呼ばれております。利益追求ではなく、社会的な使命（ミッション）の実現を目指しております。

以上のように、3組織とも概念的には変わることがありません。

そこで、今一度初心に帰り、ライオンズの思想・理念を考える時期に来ていると考えます。なぜライオンズなのか。NPOやロータリークラブでは出せない良さがあるはずです。あえて法人化やNPO化することとは、ライオンズ精神から逸脱することになるように思います。

このように、ジレンマを感じながらの1年の船出です。他のライオンに負けないライオンとして、また三役の会計としての活動をして参りたいと思っております。

Close up

10年スパンで新たな挑戦。これが楽しく生きる道

ウインドサーフィンに始まり、水上スキーに水上オートバイ、ダイビング、そしてヨット。自宅が海に面していたこともあって、30代は海遊びに明け暮れる毎日でした。ところが40歳の誕生日を機に、この10年を気ままに過ごしてきたことに疑問を感じるようになりました。考えた末に一念発起、琉球古典音楽の世界に身を投じる決断をしました。なぜ古典音楽かはうまく説明出来ないのですが、小さい頃から耳にし、身に染み付いていた琉球のリズム、メロディーが私の背中を押したというところでしょうか。高校時代、ロックバンドでドラムを叩いていましたから、まずは琉球太鼓をやってみることに。太鼓の先生に付いて、琉球舞踊の団体と一緒に国内外を興行するという半分プロのような生活が始まりました。興行の合間に稽古をつけてもらい、本番で多くの経験をしていたので上達も早かったのでしょう。琉球芸能の登竜門、琉球芸能コンクールにおいて太鼓部門の最高賞を頂きました。コンクールと言っても、受賞は新人賞、優秀賞、最高賞と段階を経なくてはならないので、昇段試験に近いかもしれません。実は、優秀賞を受賞した頃から他の楽器に目移りしていました。琉球古典舞踊では、踊りの時に三線や笛、胡弓の演奏はあるものの、太鼓は出番が少なく、踊りの間、姿勢を正してずっと待っていなくちゃいけない。面白くないんですよ。そこで目を付けたのが胡弓。結局、胡弓でも最高賞を頂き、こちらは教師免許を持つに至っています。

同じ沖縄の音楽でも、琉球古典音楽と沖縄民謡では随分雰囲気が異なります。楽譜通りにきっちり演奏する古典に対し、民謡はその場の雰囲気でどんどんアドリブが加えられる音楽。私もいつしか自由で陽気な民謡の虜になっていました。早速、沖縄民謡の歌姫と呼ばれる我如古(がねこ)より子氏の元へ、「胡弓が出来るから伴奏をさせてもらえないか」とお願いしに行きました。向こうもけげんに思ったでしょうね。ただ、当時は民謡で胡弓の伴奏はありませんでしたから、随分重宝がられました。不思議なことに、古典から民謡に興味が移ったのがちょうど50歳の時。私の体は10年単位で新しいことに挑戦するようにプログラムされているのかもしれません。現在は62歳。もう60代の目標を定めなくてはならない時期。最近は、世代を問わずさまざまなジャンルのミュージシャンからライブの誘いがあって、楽しくセッションを行う日々を送っています。うるま市の商工会会長として、沖縄民謡を通じてうるま市の、そして沖縄の良さを伝えていく。当面の目標はこんなところでしょうか。

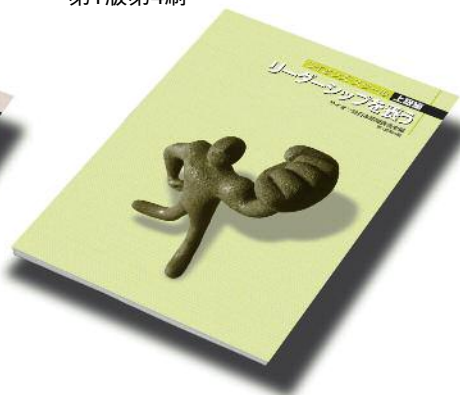
■山城和正

やましろ・かずまさ　1950年沖縄県うるま市石川(旧石川市)生まれ。2005年、石川ライオンズクラブ入会。12-13年度337-D地区沖縄リジョン第1ゾーンゾーン幹事。うるま市商工会会長を務める。琉球芸能コンクール（琉球新報社主催）の太鼓部門、胡弓部門で最高賞を受賞。会社経営の傍ら、県内外のライブ活動を始め、海外公演にも参加している。

写真／田中勝明　構成／砂山幹博

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

●初級編・ライオンズクラブ入門
第3版第3刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●中級編・クラブ運営の基礎知識
第3版第2刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●上級編・リーダーシップを養う
第1版第4刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100～499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jp宛てにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物 注文書

●ライオンズクラブ入門…………□部
●クラブ運営の基礎知識…………□部
●リーダーシップを養う…………□部

●創刊55周年記念特別セット…………□セット
（『ウィ・サーブ』『ライオニズムよ永遠に』『ライオン誌日本語版創刊号復刻版』の3冊入り）

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

ふるさと探訪
石川県金沢市　文／砂山幹博　写真／田中勝明
金沢の食文化を支える
個性豊かな加賀野菜

消滅の危機から誕生した加賀野菜

かつては全国至る所に、地域の食文化や気候風土に根ざし、古くから親しまれてきた個性的な野菜があった。しかし、日本経済が高度経済成長の波に乗り出すと、人口が都市部に集中。その需要を満たすために大量生産向きの野菜が作られるようになった。品種改良の技術が進んだこともあり、こうした野菜の多くは病気に強く栽培しやすい、形が均一で運搬に適した交配種が主流となった。不ぞろいであることが多く、病気にも弱かった在来野菜は次第に、品種改良種に取って代わられた。

城下町金沢にも、藩政時代から受け継がれる伝統野菜があったが、絶滅の危機に瀕していた。金沢で150年続く種苗店の五代目当主である松下良（金沢兼六ライオンズクラブ）はある時、馴染みの料理店でも地元の野菜が使われていないことに気付いた。

「地元の野菜は先人が残してくれた文化遺産。このままでは金沢独自の文化が消滅してしまう」

危機感を募らせた松下は1989年、店で大切に保管していた約30種の伝統野菜の種を持ち出し、周囲の生産者らに栽培してもらおうと協力を求めた。こうして91年に加賀野菜保存懇話会が立ち上がり、松下が会長を務めることになった。97年には行政が加わって金沢市農産物ブランド協会を設置。昭和20年以前から栽培され、現在も主として金沢で栽培されている15品目（さつまいも、加賀れんこん、たけのこ、加賀太きゅうり、金時草、加賀つるまめ、ヘタ紫なす、源助だいこん、せり、打木赤皮甘栗かぼちゃ、金沢一本太ねぎ、二塚からしな、赤ずいき、くわい、金沢春菊）が伝統ブランド野菜「加賀野菜」に認定された。同協会が中心となって生産振興や消費拡大に努めた結果、全ての品目で著しい増加があったわけではないが、生産量は微増もしくは横ばいで維持されている。もし「加賀野菜」ブランドに認定されていなければ、消えていた野菜は間違いなくあっただろうというのが同協会の見解だ。

金沢は地産地消の先進都市

近年、先駆けである京野菜や加賀野菜に倣って、伝統ブランド野菜が各地で誕生している。ところが多くの場合は、既にその土地でその野菜を食べる文化は消えかかっており、食べ方もほとんど知られていない。しかも高価であるため一部料理店が仕入れる以外、一般の人は見向きもしないという声を耳にする。加賀野菜も高価だが、他の伝統ブランド野菜と大きく異なる点は、身近な野菜として市民に親しまれている点だろう。金沢市民の台所、近江町市場に店舗を構える北形青果本店の北形謙太郎店長が、日本で一番高価なレンコンとして知られる加賀れんこんを例に、こんな話をしてくれた。

「節間が短く小振りで泥まみれの加賀れんこんの隣に、他県の大きく真っ白なレンコンが半額で並んでいたとしま

❶砂丘地で栽培される加賀野菜の代表格加賀太きゅうり（撮影協力：太平幸久さん）
❷市内の小坂地区では、地面をくわで掘り、一つひとつ丁寧に加賀れんこんが収穫されていた（撮影協力：本大一さん）
❸昼夜の気温差でより発色が良くなる金時草。暑すぎると、葉が丸くなり紫色も出にくくなる（撮影協力：西佐一さん）

しょう。それでも迷わず加賀れんこんを選ぶ市民がほとんどです」
金沢市は、レンコンの消費額が二十数年間日本一という都市。味の違いには敏感だ。それだけ加賀れんこんの風味や食感が他と一線を画しているのだ。

8月前半には初物が出回る。この時期は肉質がシャキシャキしているので、サッと湯通しして氷水で熱を取り、わさび醤油で食べると梨のような甘さを味わえる。最も需要が高いのは年末で、売り場はぐっと広がる。この時期は土の中でうまみをため込んでいるので、夏とは違うねっとりとした食感が楽しめる。この独特の粘りを利用して、すり下ろしたものを団子にしてみそ汁に入れるのが金沢の冬の定番。とろみがあって冷めにくいため、お腹の中でもしばらくポカポカが続く。冬が寒い金沢で愛され続ける料理だ。

❶

栽培面積の広い市内河北潟干拓地では、水圧ポンプを利用した水掘りで収穫を行うが、元来、加賀れんこんはくわ掘りで収穫する。市内小坂地区の泥湿地では、今もくわで一つひとつ丁寧に手掘りされ、泥付きのまま出荷される。泥付きの方が乾きにくく、鮮度が保たれるため高く売れるのだ。

伝統ブランド野菜の今後

加賀野菜を代表する金時草は、熊本の水前寺で栽培されていた水前寺菜が藩政時代に金沢へ伝わって、栽培され始めたものだ。今ではほとんど金沢でしか栽培されていない葉野菜である。畑のある市内北部の山間部を訪れると、葉の裏が鮮やかな赤紫色をした金時草が山の斜面に広がっていた。赤紫色は寒暖の差が大きいほど鮮やかになる。平野部の日当たりの良い場所で栽培してもこの奇麗な色が出ないというから不思議だ。茹でるとモロヘイヤのようなぬめりが出るのが特徴で、酢の物にして食べるのが一般的だ。

市の中心部から西へ移動すると、海岸線に平行する道沿いにビニールハウスがいくつも並ぶエリアが現れる。安原地区は、砂丘地野菜の栽培が盛んで、加賀太きゅうり、打木赤皮甘栗かぼち

や、源助だいこんはこの一帯で作られている。

普通のキュウリは1本のつるから1シーズンに多くて100本近く穫れるが、加賀太きゅうりは普通のキュウリの7～8倍以上の大きさになるまで育てるため、1シーズン10～12本程度しか収穫出来ない。加賀野菜というブランドを掲げていることもあって、品種改良による効率化に走らず、手間を掛けるだけ掛けて育成される。加賀野菜には品目ごとに生産部会があり、それぞれ部会で種の保存を自主規制する他、品質向上や信用維持の活動も行っている。農家によるこうした努力のおかげもあって、どの部会の農家でも若い後継者が育っている。

ブランド化によって知名度を上げ、種の保存・復活を目指すという目的はある程度は達成出来た。今後は生産量を増やすと同時に、消費拡大を進めていく考えだ。金沢市農産物ブランド協会では、市民へのPR活動の一環として、加賀野菜を使った料理教室を開催している。最初は行政が中心となって調理の指導を行ってきたが、回を重ねるうちにいろいろな団体が教室を開くようになるなど活動が伝播していった。また、八百屋やスーパーなど店頭に立つ店員を対象とした講習会も開催。野菜の特色や料理方法をお客さんにうまく説明出来るよう指導を行っている。

❶300年の歴史を持つ近江町市場でも加賀野菜は定番。店頭ではおいしい食べ方も教えてもらえる ❷粘りを生かしてすり下ろすもよし、炒めてシャキシャキ感を楽しむもよし。加賀れんこんはバリエーション豊かな食材 ❸果肉が厚くしっとりとした味わいの打木赤皮甘栗かぼちゃは煮物にぴったり

加賀野菜を使った学校給食のコンテストを企画するというユニークな試みも行われている。優勝したメニューは実際に学校給食として提供されるのだという。学校給食に関しては、生産者が直接学校に出向いて、児童との交流を通じ、加賀野菜を食べてもらうなど地道な活動も同時に行われている。

生産の拡大施策としては、2006年に生産者育成機関として金沢農業大学校を開校。2年間の研修活動を通し、加賀野菜などの栽培技術を習得してもらい、未来の担い手を育てている。販路も生産者も若いうちから。地域の食文化を守る市をあげての取り組みは、これからも続いていく。

郷土自慢・クラブ自慢

金沢兼六ライオンズクラブのクラブ自慢は、「ルビーロマン」。「赤くて大粒のブドウが欲しい」というブドウ農家の願いから、足かけ14年の歳月を費やして生まれた石川県最高峰の新品種だ。ブドウとは思えないほど粒が大きく、果汁がたっぷりと含まれているのが特徴。糖度は巨峰と同等の約20度だが、巨峰に比べると酸味が少なく、その分甘さが際立つ。初めて市場に登場した2008年の初競りではひと房10万円の最高値がついたことで話題に。11年には50万円の高値がつき、ギネスにも認定されている。鮮烈なデビューから5年。今なお、地元石川県でも食べたことがない人の方が多いという希少種である。というのも、樹に実るブドウの全てがルビーロマンとなるわけではない。ひと房ごとに糖度を測り、粒の大きさや形、色など全てが基準以上でなければその名を冠することは出来ない。それゆえ出荷量が少なく、高値のインパクトや公募で決定した宝石を思わせるネーミングも相まって、県を代表するブランド品種に成長している。

▼金沢兼六ライオンズクラブ(宮元敏夫会長/45人)=1964年6月23日結成/スポンサー：金沢東ライオンズクラブ

▼毎年2月11日に市内で剣道を習う中学生を対象とした、金沢市中学生耐寒剣道錬成大会を主催。今年度で42回目を迎える。

読者から―9月号

■関心引いた「自然体で共に」

「THEME：障害者と共に」の記事は、「してあげるのではなく、自然体で共に楽しむ」という見出しが、読者に関心を持たせるのにふさわしい表現だったと思う。それにより、共に参加するという姿勢で臨んだクラブの取り組みを知ることとなり、またライオン誌の役割も実感した。

高知中央ライオンズクラブ●竹村俊彦

■クラブの姿勢に共感

障害者に対する理解が乏しく、クラブ・アクティビティにおいて積極的に障害者と関わっていくことに一抹の不安を感じているのが多くのクラブの姿であろうと思います。そのような中、THEME掲載のクラブが、自分たちも楽しみながら障害者と向き合っていく姿勢に共感致します。一般に、伝統あるクラブほどアクティビティがマンネリ化し、単に消化すべき行事として捉えられがちです。心のこもったアクティビティとは何かを考えるヒントになる記事だと思います。

岩手県・水沢ライオンズクラブ●久慈勝範

■被災地の記事を継続して

震災から1年以上が経過する中で、直接被害を受けなかった地域においては震災が過去のものとなり、時間と共に風化しつつあります。奉仕活動で被災地を訪れたクラブから、まだ復興とはほど遠い地域もあると聞いています。「被災地のライオンズは今」のように、継続的に被災地の記事を取り上げていくことの必要性を感じました。

神奈川県・山梨アカデミーライオンズクラブ●田野倉博史

■ライオンズの精神を再考

現在は社会奉仕やボランティアの多様な活動が行われ、誰でも参画・経験する機会が広がっています。そのような時代だからこそ、あえてライオンズクラブで奉仕することの意義とは何か、再確認する作業はとても重要なことに思えます。「もう一度読みたい『あの記事』」で取り上げた「規律と精神」や2011年12月号掲載のTHEME「I Believe～信じる」といった記事には、アクティビティのみならず、クラブ運営の在り方についても、ハッとさせられる内容があり、精神や理念を軽んじていては、ライオンズの奉仕は成り立たないと知らされます。

福岡舞鶴ライオンズクラブ●荒巻敬一郎

ライオン誌事務所来訪者芳名録

日付	クラブ	氏名
8/28	東京	守時 光暉
8/29	東京渋谷	中野 了
9/7	千葉県・松戸ユーカリ	高橋 昌男
9/7	東京三軒茶屋	藤村 貞夫
9/12	東京スバル	松浦 卓司
9/20	山口県・防府ゴールデン	山根 健
9/21	東京	守時 光暉
9/21	岐阜県・土岐	加藤 正弘
9/21	岐阜県・土岐織部	加藤万寿夫
9/24	長野県・塩尻桔梗	岡村 勤
9/27	東京日本橋	屋代 誠一
9/27	山形県・天童舞鶴	寒河江潤一
9/27	千葉県・市川	杉山 民生
9/27	東京三軒茶屋	藤村 貞夫
9/27	愛知県・名古屋みなと	早川 良貫
9/28	宮城県・仙台青葉	平嶋 敬義

ライオン誌例会のススメ

ライオン誌日本語版委員会は「ライオン誌例会」を推奨しています。例会あいさつやスピーチに、本誌の情報がきっと役に立つはずです。

11月号THEME（5～15ページ）は「リーディング・アクション・プログラム」。マデン国際会長が力を入れる識字率向上、読書推進の活動のヒントとなる事例を集めました。自分たちの地域にも活動のニーズがないか、記事を参考にしながら話し合ってみてはどうでしょう。

ライオン誌例会のノウハウを収めた**「ライオン誌例会 開催ガイド」**は、ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）「各種書式／ロゴ ダウンロード」のページでPDFファイルをダウンロード出来ます。本誌バックナンバーはEブック形式で公開しておりますのでご活用ください。

ライオン誌投稿要領

■**クラブ・リポート** 30～39ページ：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。写真があれば添付。

■**獅子吼** 41～45ページ：会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。

▼原稿は誌面の都合で編集したり、掲載出来なかったりする場合があります。原則として原稿の返却は致しません。返却希望の場合はその旨を明記してください。

▼アクティビティ写真は動きのあるものを。記念撮影のような写真は適しません。

▼電子メールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。

▼住所、氏名、クラブ名を明記。

送付先：〒104-0045
東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
ライオン誌事務所
Fax：03-3546-2630
E-mail：edit@thelion.jp

もう一度読みたい「あの記事」

『ライオン』誌バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

●1994年2月号　日本ライオンズ21世紀／私の提言

「将来への方向性」

渡辺惇（千葉県・習志野ライオンズクラブ）

　私は日頃、ライオンズクラブを愛することにおいて人後に落ちないと自負している。それだけに現状と将来に相当の危惧を感じてもいる。この際、批判を恐れず若干の私見を述べてみることにする。

　第1は組織の運営面に関してである。日本人の通弊であるようだが、ライオンズの運営はよろず事大主義的傾向、形式主義的傾向、排他性が強過ぎるように思う。これは現在の会員大多数の性格、とりわけリーダーたちの性格を反映したものに他ならないであろう。このことは今日までの発展に寄与してきた一面を持ってはいるが、将来を考える時、改善されるべき点であると思う。運営が硬直化し、何かとお金が掛かり過ぎる傾向が見られるが、それは右記の性格の反映であろう。

　何から改めるか。まず年次大会の形式を改めることから取り組んではどうだろう。また、地区ガバナー公式訪問の形式もぜひ改められるべきだろう。周年行事の在り方も考えていかなければならない。その気になれば、今、直ちにでも始められることである。運営の活性化と、派手にお金を使うこととは同義語ではない。

　第2に組織拡大の問題である。日本ライオンズの性格が現状のままでは、今後組織が大幅に拡大することは物理的に無理であると考える。しかし、性格が変化すれば大いに拡大の余地はある。更に会員を増強し、組織を拡大していくには、サラリーマン層と女性層を開拓するしかあるまい。が、現在の性格と運営の在り方のままで、女性層とサラリーマン層が溶け込んでくれるとは思えない。そこで私たちは、将来の方向を明確に見定めるべき時期にきていると思う。今後とも組織の拡大発展を目指し、サラリーマン層、女性層とも協調しうる組織に変革していくのか。それとも現在の性格と運営の在り方を維持して、なだらかな発展、否、むしろ縮小均衡を目指し、かつ質的向上を図っていくのか。無定見に何でも取り込んで拡大路線を進めば、やがて組織自体が破綻することもないではない。

　第3にアクティビティの問題である。今後の日本は本物のボランティアが求められ、また増えてくる時代となる。否、そうならざるを得ない。日本ライオンズが40年前にそれを目指した時代が本当に到来するとも言える。おざなりではない、本物のボランティア活動に取り組む姿勢と実行力がなければ評価されない時代になっていく。

　今後のライオンズは、自らボランティア活動に取り組むと共に、ボランティア活動のコーディネーターの仕事が務まらなければ、真の評価を得ることは出来ない。現状のままでその実力を身に付けていると言い得るのか？　それを身に付ける努力をしているであろうか？　現在のライオンズは、「ボランティア活動のコーディネート」こそが大切であることをまるで理解していない。

　もし、会員に、それを組織的に要求するのが無理であるとすれば、スポンサー的アクティビティ中心主義でいき、その先は各単位クラブの一部の会員の自主的活動に任せることになろうが、それにしても多数の人々が理解し協力しなければ出来ることではない。すなわちアクティビティ問題についても、今後何が問われているかを研究し、将来の方向を見定めるべき時期にきているのだ。

読者プレゼント

■東日本大震災の証言集『巨大津波』を読者10人に

宮城県最南端の山元町は、東日本大震災による津波で居住地域の半分以上が浸水しました。震災前から活動していた「やまもと民話の会」が、町の人たちの証言を聞き書きして集めた『巨大津波』（1冊500円）の全3巻をセットにして10人の読者にプレゼントします。津波で仲間の1人を失った同会のメンバーは、震災体験を100年後、200年後まで語り継ごうと活動しています。

応募要領：プレゼントをご希望の方は、はがきに「巨大津波」と品名を明記して、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。ライオン誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0)からオンラインでの応募も出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は11月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

注文・問い合わせ先：山元町協同作業所・工房地球村（TEL:0223-37-0205／FAX:0223-37-0203／Eメール:tikyuson@minos.ocn.ne.jp）

次号予告

THEME
大人の社会科見学・環境編

先進的なエコ温泉リゾートとして観光客誘致を促進すると共に、エネルギーの地産地消を切り口に自立した地域づくりを推進する富山県・宇奈月温泉の「でんき宇奈月プロジェクト」の現場を見学。また、環境負荷軽減や再生可能エネルギーの取り組みが見学出来る全国の施設も紹介する。

クラブ・リポート

各地のライオンズクラブによるアクティビティを中心に、例会や同好会などの活動リポートを掲載。

ふるさと探訪 **山梨県身延町**

鎌倉時代に日蓮が草庵を結んだ身延山久遠寺。身延町はその門前町として開けた町で、町内には39軒の宿坊がある。

築地通信

●サラリーマンの小遣いがバブル期の半分の4万円弱、30年前の水準になって、昼食はワンコイン500円以内という人が増えているという。築地のワンコイン・ランチ、私のお気に入りは事務所から徒歩3分のおでん屋さん。だしが程よく染みたおでんがとてもおいしく、おにぎりは1個100円。かなり年季の入った店で、明るく気さくなご夫婦との会話も楽しい。あの「ちい散歩」も訪れたようで、亡くなった地井さんの絵が飾られていた。（かわむら）

●訂正とお詫び

10月号58ページ「日本ライオンズ分布図」中、男性会員の数値に誤りがありました。正しくは総計9万928人です。地区別男性会員数の正しいデータは、ライオン誌ウェブマガジン「ライオンズ情報資料」にある「会員数」のページでダウンロードしてご覧ください。

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 20 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Flemish-French, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Icelandic, Greek, Norwegian, Turkish, Thai and Hindi.

EXECUTIVE OFFICERS

President Wayne A. Madden, PO Box 208, Auburn, Indiana 46706, USA; Immediate Past President Wing-Kun Tam, Unit 1901-2, 19/F, Far East Finance Centre, 16 Harcourt Road, Hong Kong, China; First Vice President Barry J. Palmer, PO Box 200, Berowra, NSW 2081, Australia; Second Vice President Joseph Preston, Dewey, Arizona, USA.

DIRECTORS

Second year directors

Joaquim Cardoso Borralho, Linda-a-Velha, Portugal; Marvin Chambers, Saskatchewan, Canada; Bob Corlew, Tennessee, United States; Claudette Cornet, Pau, France; Jagdish Gulati, Allahabad, India; Dave Hajny, Montana, United States; Tsugumichi Hata, Miyagi, Japan; Mark Hintzmann, Wisconsin, United States; Pongsak "PK" Kedsawadevong, Muang District, Thailand; Carolyn A. Messier, Connecticut, United States; Joe Al Picone, Texas, United States; Alan Theodore "Ted" Reiver, Delaware, United States; Brian E. Sheehan, Minnesota, United States; Junichi Takata, Toyama, Japan; Klaus Tang, Wied, Germany; Carlos A. Valencia, Miranda, Venezuela; Sunil Watawala, Negombo, Sri Lanka.

First year directors

Benedict Ancar, Bucharest, Romania; Jaime Garcia Cepeda, Bogotá, Colombia; Jui-Tai Chang, Multiple District 300 Taiwan; Kalle Elster, Tallinn, Estonia; Stephen Michael Glass, Bridgeport, West Virginia, USA; Judith Hankom, Hampton, Iowa, USA; John A. Harper, Cheyenne, Wyoming, USA; Sangeeta Jatia, Kolkata, West Bengal, India; Sheryl May Jensen, Rotorua, New Zealand; Stacey W. Jones, Miami Gardens, Florida, USA; Dr. Tae-Young Kim, Incheon, Korea; Donal W. Knipp, Auxvasse, Missouri, USA; Sunil Kumar R., Secunderabad, India; Leif Åke "Kenneth" Persson, Vellinge, Sweden; Dr. Ichiro Takehisa, Tokushima, Japan; Dr. H. Hauser Weiler, Kilmarnock, Virginia, USA; Harvey F. Whitley, Monroe, North Carolina, USA.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版委員会

国際理事　秦　従道
国際理事　高田順一
国際理事　武久一郎
委員長　矢口武克（334複合地区）
編集長　小西宗仁（333複合地区）
委　員　久津間康允（330複合地区）
委　員　茂尾　実（331複合地区）
委　員　中居雅博（332複合地区）
委　員　団　英男（335複合地区）
委　員　組嶽晶一（336複合地区）
委　員　田崎登保（337複合地区）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

編集室

阪神淡路大震災がきっかけに

ライオン誌
日本語版委員
◉
団　英男
（兵庫県・神戸みなと）

1995年1月17日午前5時46分、私はその時を自宅のベッドの上で迎えました。聞いたことのない地鳴りで目が覚めたのです。その後すぐに信じられない揺れに襲われ、ベッドにしがみつくのが精いっぱい。電気が切れ、辺りは漆黒の闇に包まれてしまいました。

あれから17年が経ち、阪神地区は震災の跡形がほとんどなくなり見事に復興したように思われますが、いまだに心に傷がある方は大勢いらっしゃいます。「何とかせねば！」との思いから、必死で寝食も忘れて復興に頑張っていた皆さん……。亡くなられた方の無念さをかみしめて、これから何か災害があった時には誰よりも早く被災地のために尽力すると、多くの市民が心に誓い、「ボランティア元年」と呼ばれることとなりました。

その後、我が国日本ではいくつもの地震災害のみならず、風水害も発生しました。新潟の中越地震、中越沖地震や新潟・福井の水害時には阪神淡路大震災の教訓が生かされ、ライオンズクラブとしての活動も本格的に実施されました。被災地のクラブと全国のメンバーが協力しタイムリーな支援活動が出来たのも、ネットワークで芽生えたつながりの功績だと思います。

そしてそのつながりは、昨年3月11日に発生した東日本大震災でも支援の大きな力となりました。全国各地から大勢のメンバーが被災地に入り、今も支援活動が継続されています。

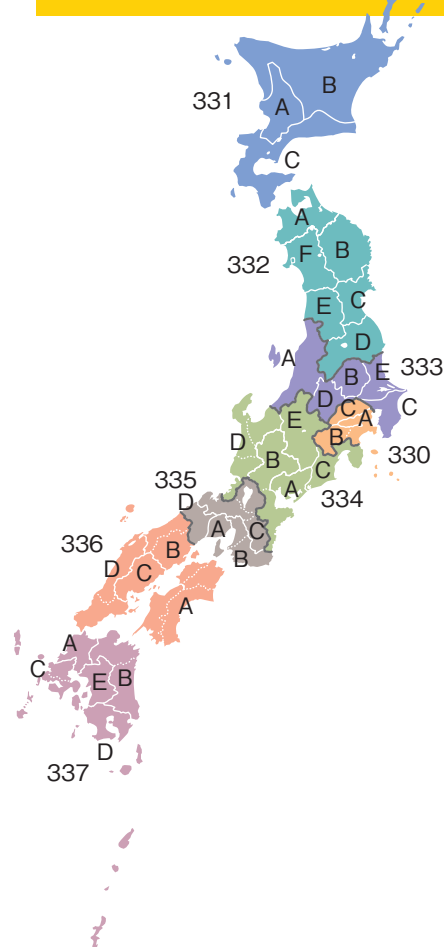
ライオン誌では追跡企画として岩手県・陸前高田、宮城県・南三陸志津川の両クラブを中心に被災地の現在の姿を克明にリポートしていますし、各クラブの献身的なアクティビティやLCIF交付金を利用したさまざまな事業を取り上げてきました。被災地ではまだまだ多くの困難があります。会員の退会も出始めているようです。全国に広がった絆を、今後も大切にしていきたいと思います。

皆さんも一度現地を訪問し、自らの目で被災地を見てはいかがですか。これからも今まで以上に、被災地へのご支援をお願いします。

日本のライオンズ

2012.9.30　eMMR ServannA報告による

地区	都道府県	クラブ数	会員数	男性会員	女性会員	期首からの増減
330-A	東京	203	5,013	4,301	712	19
330-B	神奈川・山梨・東京	176	4,933	4,338	595	19
330-C	埼玉	94	2,305	2,063	242	0
330	計	473	12,251	10,702	1,549	38
331-A	北海道（道央）	72	2,423	2,251	172	10
331-B	北海道（道北・道東）	89	2,486	2,358	128	34
331-C	北海道（道南）	53	1,786	1,593	193	20
331	計	214	6,695	6,202	493	64
332-A	青森	65	1,784	1,585	199	46
332-B	岩手	55	2,271	1,601	670	14
332-C	宮城	76	1,564	1,268	296	23
332-D	福島	76	1,965	1,771	194	21
332-E	山形	58	1,835	1,632	203	25
332-F	秋田	50	1,317	1,047	270	35
332	計	380	10,736	8,904	1,832	164
333-A	新潟	78	2,822	2,512	310	-1
333-B	栃木	53	1,482	1,089	393	10
333-C	千葉	138	3,457	2,897	560	18
333-D	群馬	54	2,068	1,680	388	13
333-E	茨城	77	2,800	2,522	278	54
333	計	400	12,629	10,700	1,929	94
334-A	愛知	122	5,241	4,695	546	54
334-B	岐阜・三重	82	3,640	3,238	402	170
334-C	静岡	82	3,103	2,976	127	-4
334-D	富山・石川・福井	96	3,848	3,601	247	49
334-E	長野	52	2,009	1,786	223	26
334	計	434	17,841	16,296	1,545	295
335-A	兵庫（東）	95	2,322	1,994	328	17
335-B	大阪・和歌山	180	5,514	4,865	649	73
335-C	滋賀・京都・奈良	120	3,909	3,600	309	33
335-D	兵庫（西）	66	1,923	1,714	209	5
335	計	461	13,668	12,173	1,495	128
336-A	徳島・高知・香川・愛媛	151	5,503	4,861	642	32
336-B	鳥取・岡山	96	3,061	2,774	287	14
336-C	広島	101	3,443	3,234	209	42
336-D	島根・山口	99	3,183	2,952	231	52
336	計	447	15,190	13,821	1,369	140
337-A	福岡・長崎	116	4,476	3,928	548	125
337-B	大分・宮崎	73	2,331	2,160	171	20
337-C	佐賀・長崎	84	3,097	2,596	501	9
337-D	鹿児島・沖縄	80	2,366	2,152	214	20
337-E	熊本	59	1,593	1,435	158	-8
337	計	412	13,863	12,271	1,592	166
総計		3,221	102,873	91,069	11,804	1,089
世界のライオンズの		6.9%	7.6%	8.9%	3.6%	

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2012.9.30　国際協会集計

ライオンズ国または領域	207
世界のクラブ数	46,403
世界の会員数	1,351,295
※男性会員数	1,022,964
※女性会員数	328,331
期首からの増減	3,909

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	12,189	344,512	-2,608
インド	6,183	220,197	4,009
韓国	2,111	82,156	801

ライオン誌11月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費76円
2012年(平成24年)10月20日発行　毎月1回20日発行　第55巻第5号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社